

【授業実践シートの例】

「聞く」「話す」「表現する」プロジェクト授業実践シート			
		教科	保健体育 氏名
授業実践日：令2年7月13日（計1回）			
授業科目	体育		
対象生徒	①所属 1年1・4組 ②人数 31名（男子17名、女子14名） ③傾向 入学始業して約2ヶ月、高校生活にも徐々に慣れてきた。比較的、体育活動に対しても積極的である。		
本時（単元）の内容	①単元名 球技（ソフトバレーボール） ②スタイル <input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 実験 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> （実技） ③ICT <input type="checkbox"/> タブレット <input type="checkbox"/> 実物投影機 <input type="checkbox"/> その他（ ） ④単元の構成 （1）ルール等の習得（本時） （2）専門的な技術の習得 （3）試合形式・競技会の運営		
本時（単元）での工夫のポイント	①工夫のポイント ・未知のスポーツのルール説明は、通常、教師が全生徒に伝えるが、今回は、各班のリーダーのみに伝達することがポイント。 ・リーダーは、自らの表現力・伝達力を駆使して、班員に伝えるところがポイント。 ②工夫することで期待できる効果 ・「聞く」（傾聴、書き取り）・・・各班のリーダーは教師のルール説明をよく聞き理解する力が育つと期待できる。班メンバーはリーダーの説明を聞き、説明を理解し、実践する力が育つと期待できる。 ・「話す」（言語活動）・・・班長はルールを班メンバーに周知させることで、話して伝える力が育つと期待できる。 ・「表現する」（非言語活動）・・・		
評価の基準	A：班長はルールを理解し、班メンバーにルールを漏らさず伝えることができる。 B：班長は教師の助けを借りながら、ルールを漏らさず伝えることができる。 C：班長は班メンバーに、ルールを伝えようとするすることができる。 D：班長はルールを理解することも、伝えることも難しい。		
「聞く」「話す」「表現する」との関連	聞く度	話す度	表現する度
	◆◆◆◆◆	◆◆◆◆◆	◆◇◇◇◇
生徒の振り返り	・「聞く」（傾聴、書き取り）・・・初めて体験する種目（ルール）ということもあり、リーダー、班メンバーともに真剣に聞き、理解しようとしていた。 ・「話す」（言語活動）・・・班長も身振り手振りを交えながら、言葉を中心に伝えようと努めていた。 ・「表現する」（非言語活動）・・・ゲーム中も身振り手振りでルールの確認をおこなっていた。		
教師の振り返り	概ね上手く伝わっていたので、今後はルールの伝達だけでなく、運営方法も伝えていけたらと感じた。		
他教科との連携			

(3) ルーブリック評価の結果（6月と12月の2回実施）

「聞く」「話す」「表現する」プロジェクト ルーブリック評価達成度

2020年12月実施

		基本・1			6月			12月			応用・2			6月			12月			発展・3			6月			12月		
聞 く	聞 (聴) く	他人の話を遮ることなく、聞くことができる。	1年	80.0%	88.1%	他人の話を要点を押さえながら聞くことができる。	1年	/	/	他人の話を要点を押さえながら聞くことができ、その文脈から相手の真意を理解できる。	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/
			2年	93.8%	90.9%		2年	61.5%	72.7%		2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/
			3年	97.3%	94.5%		3年	60.3%	79.5%		3年	19.2%	45.2%	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/
	質 問 す る	話の内容で「わからない部分」に気づき、「なぜだろう」「どうしてだろう」と疑問に思うことができる。	1年	75.0%	91.5%	話の内容で「わからない部分」に気づき、「なぜだろう」「どうしてだろう」と疑問に思い、質問することができる。	1年	/	/	話の内容で「わからない部分」に気づき、「なぜだろう」「どうしてだろう」と疑問に思い、質問し、自らの理解へ繋げることができる。	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/
2年			87.7%	83.3%	2年		38.5%	48.5%	2年		/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	
3年			82.2%	91.8%	3年		54.8%	75.3%	3年		30.1%	52.1%	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/	
メ モ ス る	他人の話を聞き、メモすることができる。	1年	60.0%	69.5%	他人の話を聞き、要点を押さえたメモすることができる。	1年	/	/	他人の話を聞き、要点を押さえ関連付けながらメモすることができる。	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	
		2年	80.0%	71.2%		2年	56.9%	59.1%		2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	
		3年	64.4%	75.3%		3年	39.7%	57.5%		3年	11.0%	34.2%	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/	
態 度	話を聞くとき、聞こうとする態度を示すことができる。	1年	86.7%	94.9%	話を聞くとき、うなづいたり、相槌を打ったりするなどジェスチャーを加えながら聞くことで相手が話しやすい環境を作ることができる。	1年	/	/	話を聞くとき、状況に応じてジェスチャーを加えながら聞くことで、相手が話しやすい環境を作ることができるだけでなく、話し手の問いに反応することで、話を活性化せようとする態度を示すことができる。	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	
		2年	95.4%	90.9%		2年	58.5%	71.2%		2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	
		3年	94.5%	97.3%		3年	68.5%	82.2%		3年	17.8%	35.6%	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/	
話 す	説 明 的	自分の意見や考えを整理して、論理的に説明することができる。	1年	28.3%	32.2%	自分の意見や考えを整理して、根拠を示しながら論理的に説明することができる。	1年	/	/	自分の意見や考えを整理して、客観性の高い根拠を示しながら論理的に相手を説くことができる。	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/
			2年	43.1%	47.0%		2年	26.2%	39.4%		2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/
			3年	46.6%	64.4%		3年	19.2%	37.0%		3年	4.1%	11.0%	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/
	配 慮 手 へ の	相手や場面にに応じて、相手に伝えることができる。	1年	65.0%	83.1%	相手や場面にに応じて、相手に伝える内容を過不足なく伝えることができる。	1年	/	/	相手や場面にに応じて、相手に伝える内容を分かりやすく過不足なく伝えることができる。	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/
2年			76.9%	78.8%	2年		26.2%	39.4%	2年		/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	
3年			84.9%	89.0%	3年		27.4%	49.3%	3年		15.1%	26.0%	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/	
魅 力 的 な	聞き手がわかりやすいように、誠意ある話し方ができる。	1年	43.3%	57.6%	聞き手がわかりやすいように、聞き取りやすい音声(声量、速さ、声の調子など)や言葉遣いを用いた話し方ができる。	1年	/	/	聞き手がわかりやすいように、聞き取りやすい声(声量、速さ、声の調子など)や言葉遣いを用いた上で、大事なところを強調したり、間の取り方を工夫したりして、相手を惹きつける話し方ができる。	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	
		2年	64.6%	77.3%		2年	41.5%	60.6%		2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	
		3年	68.5%	89.0%		3年	46.6%	71.2%		3年	11.0%	27.4%	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/	
主 体 性	自分が発言しなければならない状況において、考えや想いを発言をすることができる。	1年	51.7%	71.2%	発言しなければならない状況だけでなく、自ら積極的かつ適切に発言することができる。	1年	/	/	積極的かつ適切に発言することができると同時に、参加者の発言も引き出すことができる。	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	
		2年	72.3%	74.2%		2年	30.8%	33.3%		2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	
		3年	68.5%	82.2%		3年	26.0%	37.0%		3年	8.2%	17.8%	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/	
表 現 す る	情 報 収 集	自分の考えを表現するために必要な情報を収集する方法を知っている。	1年	58.3%	71.2%	自分の考えを表現するために必要な情報を収集することができる。	1年	/	/	様々な手段を用いて、自分の考えを表現するために必要な情報を収集することができる。	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/
			2年	84.6%	83.3%		2年	56.9%	62.1%		2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/
			3年	76.7%	87.7%		3年	52.1%	68.5%		3年	20.5%	46.6%	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/
	分 析	収集したデータを適切な方法で処理することができる。	1年	35.0%	61.0%	収集したデータを適切な方法で処理し、自らの分析と考察が為された情報にすることができる。	1年	/	/	収集したデータを適切な方法で処理し、多面的な分析がなされ、深い考察が加えられている情報にし、その情報を活用することができる。	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/
2年			47.7%	54.5%	2年		24.6%	24.2%	2年		/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	
3年			56.2%	74.0%	3年		17.8%	34.2%	3年		8.2%	19.2%	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/	
構 成 力	一つ一つの要素を組み立て、全体として一つのものとしてまとめることができる。	1年	31.7%	54.2%	納得できる要旨であり、理解できるように構成されたものをつくることことができる。	1年	/	/	一貫性のある説明がなされ、納得できる要旨であり、理解できるように構成されたものをつくることことができる。	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	
		2年	50.8%	60.6%		2年	26.2%	31.8%		2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	
		3年	49.3%	61.6%		3年	21.9%	32.9%		3年	6.8%	11.0%	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/	
非 言 語 シ ョ ウ コ ミ ュ	表情や身振り手振りなどのジェスチャーを使って表現することができる。	1年	35.0%	50.8%	相手や場面にに応じて、表情や身振り手振りなどのジェスチャーを使って表現することができる。	1年	/	/	相手を惹きつけるために、相手や場面にに応じて、表情や身振り手振りなどのジェスチャーを効果的に使って表現することができる。	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	1年	/	/	
		2年	58.5%	69.7%		2年	41.5%	53.0%		2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	2年	/	/	
		3年	67.1%	69.9%		3年	42.5%	56.2%		3年	15.1%	34.2%	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/	3年	/	/	

(4) 成果

年度当初は、新型コロナウイルス感染症対策として、生徒同士で話し合う場面や発表する機会の減少が危惧された。9月に実施された「高校魅力化評価システム」の調査結果でも、2・3年生で探究性に関わる学習活動を「よくする」「時々する」

という肯定的な回答した生徒の割合は、2年生が－12.90ポイント、3年生が－14.94ポイントと大幅に減少している。しかし、これは、コロナ禍の影響で、去年と比べて探究性に関わる学習活動の機会が減ったと感じているためだと分析している。実際、学校全体での同質問に対する肯定的な回答の割合は、昨年比で3.77ポイントの増加となっている。これは、昨年度の3年生に比べ今年度の1年生の肯定的な回答割合が大きいことが影響している。つまり、コロナ禍の影響はあるが、学校全体として探究性に関わる学習活動の機会は確保できているといえる。

4 生徒研究成果の発表

(1) 地域住民参加のポスターセッション

新型コロナウイルス感染症感染対策のため中止

(2) 中間発表ポスター展示

①期日：令和2年11月14日（土）

②場所：松島総合センターアロマ（本校の販売実習「上天草バザール」実施会場）

③展示研究数：31本（全生徒）

(3) 熊本県スーパーハイスクール生徒研究発表会

①期間：令和2年12月14日（月）～令和3年1月15日（金）

②発表方法：研究ポスターを特設ホームページに掲載

発表プレゼンテーションの動画をYouTubeで限定公開

③発表テーマ：・パール柑を使った商品開発～特産品の知名度アップを～

・廃校サバイバル

・「かみネマ」～映画による地域活性化～

・天草名物を開発しよう～地元食材の魅力を引き出す～

・上天草MRすごろく

・フィルムーン

(4) 上天草プロジェクト学年別生徒研究成果発表会「上天草“虎の穴”」

①期日：（2年生）令和2年12月22日（火）

（1年生）令和2年12月23日（水）

②場所：上天草高校図書館棟（感染症予防のため部屋を分けて実施）

※会場①で発表および審査員の審査。ZOOMで会場②③をつなぎ、観覧生徒が視聴および質問を行う。

③審査員：2年 上天草市役所企画政策課課長補佐 篠田 良 氏

1年 維和島振興協議会会長 星野 真理 氏

④発表テーマ：2年17本、1年14本

2年生	1年生
四郎が食べたかもしれない食材でスイーツ巡り	廃校お化け屋敷
上天草人生ゲーム	とくさんたくさんお弁当
天草四郎観光化計画	上天TOWN
古民家カフェ	海が見えるカフェ
室内アスレチック	CREATING TOURIST SPOTS
ジビエプロジェクト	自然のテーマパーク
天草名物を開発しよう	フィルムーン
かみネマ	焼き物カフェ
GOMIKUN part2	上天草MRすごろく
いい香りの消臭剤	流木販売代行
モリングア	廃校アウトドア
廃校サバイバル	パール柑から生まれたパロエ姫美肌
イルカで地域活性化	上天草の特産品を開発する
流木を使った家具、道具づくり、釣り体験	C a f e & 雑貨屋経営してみた
Marine Place for sports	
ひと夏の思い出づくりⅡ	
パール柑を使った商品開発	



(5) 上天草プロジェクト学年別生徒研究成果発表会「上天草“虎の穴”」

①期日：令和3年2月3日（水）

②場所：松島総合センターアロマ

③審査員：藍の村観光株式会社 代表取締役

株式会社肥後銀行 大矢野支店支店長

上天草市役所企画政策部 部長

藤川 護章 氏

米本 明弘 氏

花房 博 氏



④発表テーマ：プレゼンテーション部門 6本

※学年予選会の各学年上位3チームがプレゼンテーションを実施

廃校アウトドア
パール柑を使った商品開発
流木販売代行
上天草で映画が見れる！！かみネマ
上天草MRすごろく
ジビエプロジェクト

ポスターセッション部門 25本

night seaで思い出作り	廃校お化け屋敷
パール柑から生まれたパロエ姫美肌	天草名物を開発しよう
C a f e & 雑貨屋経営してみた	室内アスレチック
いい香りの消臭剤	CREATING TOURIST SPOTS
Marine Place for sports	上天草さるくゲーム
上天TOWN	とくさんたくさんお弁当
四郎が食べたかもしれない食材でスイーツ巡り	流木を使った家具、道具づくり、釣り体験
イルカで地域活性化	廃校サバイバル
上天草の特産品を開発する	焼き物カフェ
古民家カフェ	モリングア
海が見えるカフェ	GOMIKUN part2
天草四郎観光化計画	フィルムーン
自然のテーマパーク	

5 エキスパート生徒派遣

(1) 内容等

上天草市では小中高一貫の起業家教育に取り組んでおり、本校生徒をエキスパート生徒として本校生徒を派遣し、中学生の作成したビジネスプランにアドバイスをを行った。また、本校の販売実習「上天草バザール」において、中学生の開発した商品の販売実習とともに、市内すべての中学校がビジネスプランを発表する「上天草市起業家教育推進事業の成果発表会」を実施した。

①エキスパート生徒派遣の詳細

(ア) 松島中学校

- i 実施日：令和2年10月13日（火）
- ii 派遣生徒：14名
- iii 中学校テーマ：・廃校利用宿泊施設
・シーグラス商品開発

- ・特産物を使用したカレーの開発
- ・トレッキングイベントを中心とした旅行商品

(イ) 維和中学校

- i 実施日：令和2年10月13日（火）
- ii 派遣生徒：2名
- iii 中学校テーマ：
 - ・商品開発（デザート・流木アート）
 - ・旅行商品（釣り体験）
 - ・空家カフェ

(ウ) 大矢野中学校

- i 実施日：令和2年10月27日（火）
- ii 派遣生徒：12名
- iii 中学校テーマ：
 - ・商品開発（廃棄農産物&豆腐）
 - ・旅行商品（上天草シニアスマホ教室）
 - ・旅行商品（天草島国旅行）

(エ) 姫戸中学校

- i 実施日：令和2年11月10日（火）
- ii 派遣生徒：6名
- iii 中学校テーマ：スポーツイベント（グラウンドゴルフで交流等）

(オ) 龍ヶ岳中学校

- i 実施日：令和2年11月10日（火）
- ii 派遣生徒：6名
- iii 中学校テーマ：商品開発（廃棄農産物の加工品開発）

②中学校の感想

～出典：令和2年度第2回上天草市「起業家教育」推進協議会資料～

（先生方のご意見から）

「多くの人と関わる中で、貴重な体験ができ、成長できた。」

「高校生徒の交流もできて、新しい発見ができた。」

「上天草バザールでの発表・販売は良い目標となった。」

「実際の商品化、販売は、とても達成感を得られた。」

など

第3章 資料集

Ⅰ 教育課程表

学 科			普 通 科										
入 学 年 度			平 成 3 1 年 度 入 学										
令和2年度現在学年○印			Ⅰ		Ⅱ			Ⅲ			計		
類型(コース)			普通	特進	普通	文系	理系	普通	文系	理系	普通	文系	理系
教科	科 目	標準単位											
国語	国語総合	4	5	5							5	5	5
	国語表現	3						★2			0, 2		
	現代文B	4			2	2	2	3	3	2	5	5	4
地理歴史	古典B	4			2	3	2	3	3	3	5	6	5
	世界史A	2			2	3	3				2	3	3
	世界史B	4							4	4		0, 4	0, 4
	日本史A	2				3	3	3			3	0, 3	0, 3
	日本史B	4							4	4		0, 4	0, 4
	地理A	2			2	3	3				2	0, 3	0, 3
公民	地理B	4							4	4		0, 4	0, 4
	現代社会	2	2	2							2	2	2
	倫理	2			●2						0, 2		
数学	政治・経済	2						3	3		3	3	
	数学Ⅰ	3	3	3							3	3	3
	数学Ⅱ	4			4	4	3	4	3		8	7	3
	数学Ⅲ	5					1			6			7
	数学A	2	2	2							2	2	2
理科	数学B	2				2	2		2			4	2
	科学と人間生活	2											
	物理基礎	2				2	2	3			3	2	2
	物理	4								5			0, 5
	化学基礎	2	2	3							2	3	3
	化学	4					2			3			5
保健体育	生物基礎	2			3	2	2				3	2	2
	生物	4							4	5		4	0, 5
芸術	体育	7~8	3	3	3	2	2	2	2	2	8	7	7
	保健	2	1	1	1	1	1				2	2	2
	音楽Ⅰ	2	2	2							0, 2	0, 2	0, 2
	音楽Ⅱ	2			2						0, 2		
	音楽Ⅲ	2						2			0, 2		
	美術Ⅰ	2	2	2	2						0, 2	0, 2	0, 2
	美術Ⅱ	2			2						0, 2		
	美術Ⅲ	2						2			0, 2		
外国語	書道Ⅰ	2	2	2							0, 2	0, 2	0, 2
	書道Ⅱ	2			2						0, 2		
	書道Ⅲ	2						2			0, 2		
	コミュニケーション英語基礎	2	3	3							3	3	3
	コミュニケーション英語Ⅰ	3	3	3							3	3	3
家庭情報	コミュニケーション英語Ⅱ	4			4	4	4				4	4	4
	コミュニケーション英語Ⅲ	4						4	5	4	4	5	4
	英語表現Ⅰ	2			●2	2	1		2	2	0, 2	4	3
商業	家庭基礎	2	2	2							2	2	2
	社会と情報	2	2	2							2	2	2
福祉	各学科共通教科計		30	31	25, 27	30	30	27, 29	31	31	82, 84, 86	92	92
	ビジネス基礎	2~4			3						3		
	広告と販売促進	2~4						★2			0, 2		
	ビジネス情報	2~6						★2			0, 2		
学校設定	プログラミング	2~6			●2						0, 2		
	子どもの発達と保育	2~6			●2						0, 2		
特活	生活と福祉	2~6						★2			0, 2		
	コミュニケーション技術	2~4			●2						0, 2		
合計	専門教科計				3, 5			0, 2			3, 5, 7		
	上天草プロジェクトⅠ	1	1	1							1	1	1
	上天草プロジェクトⅡ	1			1	1	1				1	1	1
	上天草プロジェクトⅢ	1						1	1	1	1	1	1
	地域起業研究	1			1	1	1				1	1	1
合計	地域イノベーション研究	1						1			1		
	ホームルーム活動		1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	3
合 計			32	33	33	33	33	32	33	33	97	99	99

※ 普通クラス2年次の●2、3年次の★2からそれぞれ1科目ずつを選択
 ただし、普通クラス2年次の「英語表現Ⅰ」、「子どもの発達と保育」と3年次の「生活と福祉」は、普通科および情報会計科の2学科の生徒の選択科目とし、普通クラス2年次の「プログラミング」と3年次の「ビジネス情報」は、普通科および福祉科の2学科の生徒の選択科目とする。

※ 1年次、4月から9月まで「コミュニケーション英語基礎」を、10月から3月まで「コミュニケーション英語Ⅰ」を履修する。

※ 2学年理系コースの数学Ⅲの学習は数学Ⅱの範囲の学習を終了した後に行う。

※ 総合的な探究の時間は、学校設定科目「上天草プロジェクトⅠ」、「上天草プロジェクトⅡ」、「上天草プロジェクトⅢ」で代替する。

学 科			情 報 会 計 科			
入 学 年 度			平 成 3 1 年 度 入 学			
令和2年度現在学年○印			I	Ⅱ	Ⅲ	計
教科	科 目	標準単位				
国語	国 語 総 合	4	4			4
	国 語 表 現	3			★2	0, 2
	現 代 文 B	4		3	3	6
地理 歴史	世 界 史 A	2		2		2
	日 本 史 A	2			2	2
公民	現 代 社 会	2	2			2
	倫 理	2		●2		0, 2
数学	数 学 I	3	3			3
	数 学 II	4			4	4
	数 学 A	2		3		3
理科	科学と人間生活	2		2		2
	生 物 基 礎	2			2	2
保健 体育	体 育	7~8	3	3	2	8
	保 健	2	1	1		2
芸術	音 楽 I	2	2	}		0, 2
	美 術 I	2	2		0, 2	
	書 道 I	2	2		0, 2	
外国語	コミュニケーション英語基礎	2	3			3
	コミュニケーション英語 I	3		3		3
	コミュニケーション英語 II	4			4	4
	英 語 表 現 I	2		●2		0, 2
家庭	家 庭 基 礎	2	2			2
情報	社 会 と 情 報	2				0
各 学 科 共 通 教 科 計			20	17, 19	17, 19	54, 56, 58
家庭	子どもの発達と保育	2~6		●2		0, 2
	生 活 と 福 祉	2~6			★2	0, 2
商業	ビ ジ ネ ス 基 礎	2~4	2			2
	課 題 研 究	2~6			4	4
	総 合 実 践	2~4			4	4
	広 告 と 販 売 促 進	2~4			★2	0, 2
	経 済 活 動 と 法	2~4				
	簿 記	2~6	5			5
	財 務 会 計 I	2~4		4		4
	財 務 会 計 II	2~4			4	0, 4
	原 価 計 算	2~4		3		3
	情 報 処 理	2~6	4			4
ビ ジ ネ ス 情 報	2~6		5		5	
プ ロ グ ラ ミ ン グ	2~6			4	0, 4	
福祉	コミュニケーション技術	2~4		●2		0, 2
専 門 教 科 計			11	12, 14	12, 14	35, 37, 39
学校 設定	上天草プロジェクトⅠ	1	1			1
	上天草プロジェクトⅡ	1		1		1
	上天草プロジェクトⅢ	1			1	1
特活	ホームルーム活動		1	1	1	3
合 計			33	33	33	99

※ 各学科共通教科「情報」科目「社会と情報」は、専門教科「商業」科目「情報処理」で代替

※ 2年次の●2、3年次の★2からそれぞれ1科目ずつを選択は、普通科および情報会計科の2学科の生徒の選択科目とする。

ただし、2年次の「英語表現Ⅰ」、「子どもの発達と保育」と3年次の「生活と福祉」は、普通科および情報会計科の2学科の生徒の選択科目とする。

※ 総合的な探究の時間は、学校設定科目「上天草プロジェクトⅠ」、「上天草プロジェクトⅡ」、「上天草プロジェクトⅢ」で代替する。

学 科			福 祉 科							
入 学 年 度			平 成 3 1 年 度 入 学							
令和2年度現在学年○印			I	Ⅱ		Ⅲ		計		
類型（コース）			全	介護福祉	地域福祉	介護福祉	地域福祉	介護福祉	地域福祉	
教科	科 目	標準単位								
国語	国語総合	4	3	1	1			4	4	
	国語表現	3					★2		0, 2	
	現代文B	4		2	2	2	3	4	5	
地理 歴史	世界史A	2		2	2			2	2	
	日本史A	2				2	2	2	2	
公民	現代社会	2	2					2	2	
	倫理	2			●2				0, 2	
数学	数学Ⅰ	3	2	2	2			4	4	
	数学Ⅱ	4					4		4	
	数学A	2				2		2		
理科	科学と人間生活	2		2	2			2	2	
	生物基礎	2				2	2	2	2	
保健 体育	体育	7~8	3	3	3	2	2	8	8	
	保健	2	1	1	1			2	2	
芸術	音楽Ⅰ	2	2					0, 2	0, 2	
	美術Ⅰ	2	2					0, 2	0, 2	
	書道Ⅰ	2	2					0, 2	0, 2	
外国語	コミュニケーション英語基礎	2	3					3	3	
	コミュニケーション英語Ⅰ	3		2	2	2	2	4	4	
	英語表現Ⅰ	2			2		2		4	
家庭 情報	家庭総合	4	2	2	2			4	4	
	社会と情報	2						0	0	
各学科共通教科計			18	17	19, 21	12	17, 19	47	54, 56, 58	
家庭	子どもの発達と保育	2~6					4		4	
	生活と福祉	2~6			5				5	
	フードデザイン	2~10					4		4	
	消費生活	2~4					2		2	
商業	広告と販売促進	2~4					★2		0, 2	
	ビジネス情報	2~6					★2		0, 2	
	プログラミング	2~6			●2				0, 2	
福祉	社会福祉基礎	2~6	2	2				4	2	
	介護福祉基礎	2~6	2			3		5	2	
	コミュニケーション技術	2~4			●2	2		2	0, 2	
	生活支援技術	2~12	3	3		4		10	3	
	介護過程	2~6		2		2		4		
	介護総合演習	2~6	1	1	3	1		3	3	
	介護実習	2~16	2(2)	2(2)		4(1)		8(5)	2(2)	
	こころとからだの理解	2~12	3	2		3		8	3	
福祉情報活用	2~4		2	2		2	2	4		
専門教科計			13(2)	14(2)	10, 12	19(1)	12, 14	46(5)	35, 37, 39(2)	
学校 設定	上天草プロジェクトⅠ	1	1					1	1	
	上天草プロジェクトⅡ	1		1	1			1	1	
	上天草プロジェクトⅢ	1				1	1	1	1	
特活	ホームルーム活動		1	1	1	1	1	3	3	
合 計			33(2)	33(2)	33	33(1)	33	99(5)	99(2)	

※ 各学科共通教科「情報」科目「社会と情報」は、専門教科「福祉」科目「福祉情報活用」代替

※ () 内は、時間外介護実習

※ 地域福祉類型2年次の●2、3年次の★2からそれぞれ1科目ずつを選択

ただし、地域福祉類型2年次の「プログラミング」と3年次の「ビジネス情報」は、普通科および福祉科の2学科の生徒の選択科目とする。

※ 総合的な探究の時間は、学校設定科目「上天草プロジェクトⅠ」、「上天草プロジェクトⅡ」「上天草プロジェクトⅢ」で代替する。

2 各委員会議事録

第1回運営指導委員会 会議録

令和2年7月3日（金）
10:00～12:00
於 上天草高校視聴覚室

出席者

運営指導委員

堀江 隆臣 委員（上天草市長）
荒木 朋洋 委員（東海大学九州キャンパス長）
足立 國功 委員（熊本ソフトウェア(株)代表取締役社長、熊本県産業教育振興会会長）
田中 尚人 委員（熊本大学 熊本創生推進機構 地域連携部門 准教授）
松富 浩之 委員（熊本日日新聞社上天草支局長）

県教育委員会

岩本 修一（熊本県教育庁 県立学校教育局 高校教育課 課長）
松村 加奈子（熊本県教育庁 県立学校教育局 高校教育課 高校魅力推進室 室長）
清本 大介（熊本県教育庁 県立学校教育局 高校教育課 高校魅力推進室 指導主事）

学校関係者

田中篤（校長）、草原俊明（教頭）、野崎公明（事務長）、清村純一郎（教務主任）
農田真紀（進路指導主事）、元田有祈（カリキュラム開発等専門家）
浅利竜生（研究主任）、森川弘毅（研究副主任）

オブザーバー参加

鬼塚 正二（上天草市役所 企画政策部 企画政策課 地方創生係 係長）

内容

1. 開会

- (1) 県教育委員会あいさつ（岩本課長）
- (2) 学校長あいさつ（田中校長）
- (3) 関係者紹介
- (4) 日程説明

2. 事業説明

「令和元年度事業報告」並びに「令和2年度事業計画」を研究主任が説明。
質疑なし。

3. 協議

研究協議の座長を田中委員にお願いし、座長が協議を進行。以下はその要旨。

（田中委員）上天草高校の取組は学校教育の分野として効果をあげているだけでなく、地方創生という面でも評価が高い。このふたつ分野のシナジー効果で上天草を元気にしている。この取組の原点であるコミュニティ・スクールと起業家教育（アントレプレナーシップ）をやっているというのが強み。これを3年間で磨いてあげることが大事。

また、コロナ感染症の影響で2か月活動できていない。もともと2年目というのは停滞しがちな傾向にある。しかし、この大変な社会情勢を“バネ”にしてほしい。普通のことをしていたらパフォーマンスは落ちるので、今年逆は“攻め”てほしい。2年目で一番良くないのは“守り”に入ること、せっかく革新的な事に取組んでいるのに、そのスピードを止めるということは良くない。昨年の取組で生徒が良い方向に進んでいると実感している。子どもがやりたいと言うことはやらせてあげる。大人が疲れてしまって、子どもたちについていけなくならないように、安全面も含めたマネジメントをしっかりとやっていくことが大事。

今回は時間も限られているので、内容を課題改善に絞って協議を進めていきたい。一番困っていることを解決することが良いので、現状を教えて欲しい。特に先生方が疲れていないか心配。

（研究主任）疲労感については、個人的には楽しんでやっているのを感じていない。課題に関しては、生徒の研究を外部に協力を仰ぐレベルまで引き上げることとお忙しい方たちにどこまで相談してよいか心配。

（校長）赴任前は、たくさん指定事業を抱えて職員が疲れているのではと心配していた。しかし、この事業があるから学校が軋んでいるようには感じていない。生徒も学校ものんびりした気質なので、そのペースで職員が無理することなくやっている気がする。アウトカムに拘るつもりはなく、生徒の意識が変わっているという成果を大切にしていきたい。

外部との連携という課題については、皆様のお力を借りなければならぬので、もっと良い方法があれば御助言いただきたい。

（元田CD）この取組をすることで、最終的には、探究の授業を生徒と先生がともに探究を深める時間にしたい。先生が「答えを準備しなければ・・・」と先生が用意した答えに向かって授業に取組むのではなく、生徒と一緒に上天草を知り、一緒にゼロから答えを創りだすようになってもらいたい。その中で負担感を減らすことがコーディネーターの仕事だと思っている。

また、学校から地域の人に協力をお願いするのが憚られるように、地域から見ても上天草高校は数居が高いと感じられている。互いに協力したいという思いはあるが遠慮しているようなので、地域の方を高校に呼び、生徒を地域に入れる方法を考えていきたい。

3つ目の課題は、生徒のアイデアを実現させるために地域との協力体制の構築方法。「南阿蘇の空き地を使ったサバイバルゲーム」「喫茶店の駐車場でドライブインシアター」「樋合の水上アスレチック」など熊本で実現した取組は、生徒がビジネスプランとして考えたアイデアとよく似ている。アイデアを実現する一歩が踏み出せていないので、「無理だ」と決めつけるのではなく、実現できる体制の構築や気運を高める方法を考えたい。

(田中委員) この話は地域の方にも聞いてほしい内容で、マッチングの問題はあるにせよ、地域と高校がもっと絡んでいいのではと感じる。市役所がやりたいことに関しては、既にオファーがあるとの事なので進めてもらい、高校生がやりたいことを地域がどうするか考える機会があっても良い。

課題は整理できたので、委員の方から、課題解決の方法や、やってみたいこと、必ずしも答えがあるものでなくてもアイデアで構わないので教えてください。学校側のリクエストだけでなく地域社会側のリクエストがあっても良いと思っている。

(堀江委員) (学校と) 地域の団体との接点を創っていくのが市役所の仕事なので、気軽に相談してもらえればマッチングできる。

民間の人が学校に出向いて話をすることはハードルが高いので、生徒が彼らのフィールドに出かけていくことで、民間の方も自分のペースで話せるので、生徒が出かけて行くことより実践的な教育になる。

(荒木委員) 地域の方が学校に対して数居が高いと感じているのは大学も同じ。今日、地域貢献というのが大学の使命として非常に重要だが、接点がないのが現状。だから、地域の人たちに「高校になにができるか」を発信し、「情報共有」することが大切。高校生側も自分たちの発想を実現させるための情報が不足している。そのために地域理解から始めているので、高校生に地域の資産や特色を理解させ、そこから若い柔軟な発想を引き出す必要がある。そこから地域との接点が見だせるので、「情報の共有」から始めなければミスマッチが起こる。

また、特定の先生に負担がいかないように全校体制で取組んでもらいたい。(田中委員) 大学でリモートの授業を実践しているが、先生が楽しんでいる授業はどう

まくいっている。リモートで時間制限があるので研ぎ澄ます必要があり、新鮮かつ教えるという行為が本質的になって面白いかんじるようになった。コロナというピンチをチャンスとして捉えることができたと感じている。この事業においても「研ぎ澄ますこと」と生徒も先生も“みんなで作る”ということを大切にしたい。今年は1・2年生を対象で過半数が取組んでいるので、良い効果も期待できる。みんなで作るという意味で3年生にも活躍の場を与えると、波及効果が期待できる。

(足立委員) 熊本県産業教育振興会における今年の重点目標は各支部の活性化。どうしても都市部での活動が多くなるので、郡部で自治体との関係を強化した活動を推進したい。上天草市は市長のリーダーシップで、自治体と学校の密接な関係が保たれている。

県と協力してテレワーク支援プロジェクトを立ち上げている、リモート教育も含めて、今までと違った世の中になりつつある。リモート社会になれば、学校と外部のコンタクトも容易になる。with コロナで上天草の魅力と外部をつなぐ環境が良くなったと考えている。

内閣府が進める、都会の有能な人材と地方を結びつける「関係人口」の流れで、優秀な方の知恵をリモートで借りることができる。

with コロナで社会全体が変革を余儀なくされ、不連続性があっても良いと考えている。この事業において、当初と計画を変更し、もっとリモートを使った活動に予算を使うなどの変更をしても良いものか聞きたい。

(松村室長) 今の段階ではなんとも言えない・・・

(田中委員) 文科省に提出している計画を、思い切って変更して“攻め”ていけるように県としてサポートをお願いしたい。うまくいっていることはそのまま進め、課題だと感じていることはドラスティックに変えていけるようにしてほしい。業界が変わっているのだから高校のさらに若い高校生なら変わっていいので、どんどん変えていくようにしてほしい。

「聞く」「話す」「表現する」プロジェクトでコンピテンシーを小中学校まで広げる取組は評価できる。ただし、コンピテンシーは広げていってもルーブリック自体はどんどん変えて構わない。

テレワークやリモートはプラスにもなるがマイナスにもなりやすい。都会人たちの草刈り場にならないように注意が必要。まずは、上天草市の方たちとの繋がりをリモートも含めて繋がり、それでも足りなければ熊本県内で繋がりをもてるよう、つながる相手をうまく使い分けてほしい。

(松富委員) 外部とのつながりを大人が用意するのではなく、子どもたちにつながらせ

てみてはどうか。意外とSNSでつながれる可能性もある。

また、リモートだけでは感じる事が難しい“肌感覚”もあるので、市役所の人などを介して、地域の人たちに会いに行くことも大切。

(田中委員) 実際に出向いて直接会うことと、普段会えないような人とつながれるリモートはどちらも大事。

(鬼塚係長) 市役所で個人的に異業種交流を行っている。その交流の場を上天草高校に設定して、高校生も含めた交流ができないだろうか。高校生が憧れる方の講演会を上天草高校で実施し、地元の事業者も一緒に聞いて、その後ワークショップを行うことで交流し、生徒と地域とのマッチングができるのではないかな。

(田中委員) 高校生は親和性が高いので、行政の縦割りや上天草の4地区の隔たりなど関係なく話ができるのではないかな。

(研究主任) オフィシャルな繋がりで依頼をすると、結果が求められ、着地点がどこなのかハッキリできない活動はやりづらい。本当は「やってみて」、その過程を大切にしたいのだが、オフィシャルなお願いに対するオフィシャルな返答になってしまう。ちょっと相談するなど、オフィシャルじゃない繋がりを広げる方法が必要だと感じた。

(田中委員) (本来は) 過程が問われるはずなのに、オフィシャルでいくと、どうしても結果や成果が求められる。良い塩梅でアンオフィシャルな繋がりを築くことがその地域の幅になる。上天草市がそれをできる地域になるために、上天草高校がリーダーシップを発揮できると良い。「高校生が頑張っているのだから、地域の大人も頑張らなきゃ」が理想。大人は失敗が許されないが、高校生は許してもらえるので、どんどん挑戦することが重要。

(清本指導主事) 計画している探究活動が実現することを期待しており、今年の結果が来年以降に大きく影響する。

(田中委員) 地域への波及効果ばかりフォーカスされるが、探究活動などをとおして求める人材を育成するのが目的だが、うまくいっているか。

(研究主任) 昨年は生徒の考える時間を確保できず深まらなかった印象があるので、今年こそ「自分で考え、自分で繋がり、自分で実行できる」ようにしたい。今年が正念場なので、探究活動が自走できるような仕組みを作らなければならない。

(田中委員) 生徒の探究活動に絞って、委員の先生にアドバイスをお願いしたい。

(荒木委員) この時代何が正しいか分からない。その地域に産業を興さなければ、地方

創生ができないわけではない。フレキシブルな発想、フレキシブルな探究力を身につけることで地域のリーダーになれる。

(田中委員) 次のスタンダードを考えなければならないということ。

例えば、道路の新しい使い方が議論されている。今まで道路は車のためのものだったが、賑わいを演出する場として利用するという考えがある。コロナを機に三密を避けるためにオープンカフェとして活用されている。

次の時代のスタンダードをどうつくるか。そのとき上天草に何が必要かを議論する必要がある。

(足立委員) with コロナ、after コロナにおいて、企業の研修活動はリモートが主流になっている。もはや特別なものではない。そうなってくるとフェイス to フェイスではないコミュニケーションの教育が必要。子どもたちは早く馴染むと考えられるので、探究心があればつながれる。リモートでも怯まず、やりとりできる生徒を育成して欲しい。

同時に、人間力を身につけるために地域社会と密接につながれるよう、交流していく必要がある。

(田中委員) ICT技術については、部下が上司に使い方をレクチャーする場面も見られるなど、若者は当たり前のようにやっている。

逆に彼ら「デジタルネイティブ」の世代は、人間力が不足している。この両方を育成する必要がある。

「当たり前が変わってくる」ので、対話型で物事を解決していくことが重要。結局は「聞く」「話す」「表現する」力が必要となってくる。

(田中委員) 松富委員は上天草にどんな印象をお持ちか。

(松富委員) 上天草は観光地なので外から人が流入しやすい地域。ただ、その人たちと地元がどれだけ連携できているか分からない。小さいコミュニティでの繋がりが強い地域だと感じている。

(田中委員) 新しい観光(国内旅行が増えるなど)になる。「長く滞在する」や「地元の人と交流する」といった新しい産業を創っていく必要がある。上天草の海が資産になるかもしれないし、過疎だから学べるものがあるなどがコンテンツになる可能性がある。

ドイツの中山間地では限界集落を「マージナルエリア」と呼んでいる。そこでは、「足るを知る」という言葉の通り、自分たちの地域に必要なものを必要だけという政策をとっている。

(堀江委員) (市では起業家教育を進めているが、) 起業することを難しく捉えないで欲

しい。失敗を恐れると取組み方が制限される。起業家教育を推進する真意は、地域のことを知ってもらって、地域と繋がりを持ってもらい、地域で頑張りたいたいと思う人材を育てたいと考えているのであって（起業が目的ではない）、大らかな気持ちで、先生も生徒が楽しくて、おもしろいと感じるやり方をすれば、必然的にうまく行くと確信している。

コロナウイルスの影響で様々な取組がリセットされているが、地方創生に関しては逆に進むと考えている。都市部の感染リスクを避け、地方に住居を構えたいと考える方が増えてもおかしくないと感じている。

我々が想像できないことを考えつのが高校生の良いところなので、その柔らかさを大切にしてもらいたい。

（田中委員）探究活動のおもしろいところは「自分で設定する」というところ。起業家教育とは言うけど、起業が目的ではなく、研究が（夢ではなく）現実社会とつながっているという感覚が重要。

「失敗しても良い」という教育は難しいが、先生方も解を持っていないと良い。転動して来て地元を知らないのは当然なので、謙虚な気持ちで取組み、人生の先輩として「失敗してもいい」という事を教えて欲しい。

循環型でないかと終わりが来ってしまう。この活動が補助事業じゃなくなっても、上天草高校として循環（持続可能）していかなければならない。「先生が異動しても先輩が知ってる」だったり、本質的な「失敗してもいい」ということを伝え続けることが大切。

個人の全人格をかけて起業にチャレンジする人がいるのに、失敗したら（借金として）責任を全て負うのはリスクが高すぎる。山口県の長門湯本温泉では、（貸付ではなく“まちづくりファンド”から株主資本として資金が投入される仕組みがあるので、）失敗に対する責任を分散させている。このようにうまくいくか分からないチャレンジを地域で支えることができれば良い。

（教 頭）県内の半数以上の高校が定員割れをする中、高校の魅力を発信するか、地域とどうつながるかがキー。本校の取組は、今後の高校教育の在り方に還元できるものがある。本校の活動と開発したカリキュラムは、県内だけでなく全国に発信できるものにし、地域創生に貢献できると良いと思っている。

もう一つのキーワードは「持続可能」で、この取組が特定の職員がいなければ運営できないのではなく、新しく異動してきた職員でもできるような仕組みにしていけることが大切。文科省の指定が外れても継続していけるように着地点を考えていきたい。

（岩本課長）以前から上天草市と上天草高校が深く連携していることを羨ましく思っていた。

グローバル化と言っているが生徒は、世界人口は答えられても自分の住む市町村の人口を答えることのできる生徒は少ない。地域との連携を図るには、地域の現状を知らなければならない。世界に目を向けるというベクトルは素晴らしいが、ベクトルの始点である“自分が今立っている場所”“自分が生活している場所”にも目を向けなければならない。その視点がなければ、探究学習は机上の学習になってしまう。上天草高校生徒は、素晴らしい環境に甘んじることなく、地域を知り探究活動に取組んでもらいたい。

（田中委員）（田中准教授の）ゼミで「サステナブル」の反対語は何か議論した。結果、反対語は「変化を拒む」に落ち着いた。変わらないで良いことは変える必要はないが、変えていくべきは変えていくのが「サステナブル」。

ちゃんとしたカリキュラムを創ることで「誰がやってもできる型」を作ってもらいたい。型に拘るのは本末転倒で、人によってカスタマイズされるのは当然だとしても、基本となる型をしっかり作ることは大切なこと。

これは“大いなる挑戦”として、楽しんでやってもらいたい。

（進路指導主事）昨年の取組で、現2年生（対象生徒）について、「聞く」「話す」「表現する」プロジェクトの成果が定着してきていると感じている。

（田中委員）地道な成果が現れているということなので、継続すべき事は継続して欲しい。

今回の内容は参加者だけでなく、地域の人たちにも知って欲しい内容。発信できるチャンスがあれば発信してもらいたい。

（足立委員）大学や研究機関との連携についてはどのように考えているか。

（校 長）生徒が研究を進めていく中で、個別に繋がりを持てるようにしたいと考えている。

（元田CD）生徒の研究内容に合わせて、必要なことをアドバイスしていただく事と大学生が上天草で活動される際に、一緒にフィールドワークを体験することを想定している。

（荒木委員）東海大学の観光学科の先生に、熱心に地域との連携を進めている方がいる。このような方にアドバイスを求めるなどすると良いと感じた。

（足立委員）産業教育振興会では、学園大学や崇城大学と協定を結んでいる。これは高校生が大学生に教えてもらう活動で、同じ世代同士の方が良いと考えている。

（田中委員）大学は個人営業で、先生方は縄張り争いもなく、分野が違えば競争は起きない。やりたいことを相談いただければ対応してもらえるし、マッチングも

できると思う。連携ありきではなく、一緒に活動することで連携が深まると感じている。

4. 閉会

- (1) 学校長あいさつ (田中校長)
- (2) 県教育委員会謝辞 (松村室長)

第2回運営指導委員会 会議録

令和3年2月3日(水)

13:00~15:30

於 松島総合センター アロマホール

出席者

運営指導委員

- 堀江 隆臣 委員 (上天草市長)
足立 國功 委員 (熊本ソフトウェア(株)代表取締役社長、熊本県産業教育振興会会長)
田中 尚人 委員 (熊本大学 熊本創生推進機構 地域連携部門 准教授)
松富 浩之 委員 (熊本日日新聞社上天草支局長)

県教育委員会

- 松村 加奈子 (熊本県教育庁 県立学校教育局 高校教育課 高校魅力化推進室 室長)
清本 大介 (熊本県教育庁 県立学校教育局 高校教育課 高校魅力化推進室 指導主事)

学校関係者

- 全職員・生徒会長 (小崎美羽)

内容

1. 開会

- (1) 県教育委員会あいさつ (松村室長)
- (2) 学校長あいさつ (田中校長)
- (3) 関係者紹介

2. 事業成果報告および指導・助言

「令和2年度事業報告」を研究主任が説明。

運営指導委員からの指導、助言。以下は要旨。

(田中委員) 上天草高校の取組はいつも興味深い。是非楽しみながら「今までにやった

ことがないこと」に挑戦してほしいと思っている。そして、失敗してもよいという気持ちをもって、楽しく失敗してほしい。

最終的にはこの取組で、「誰がやってもできる」カリキュラムを作り上げてほしい。

(足立委員) 従来の専門高校は専門学科だけであったが、合併により普通科と複数の専門学科が1つの学校に共存していることもある。産業教育振興会では、(産業教育を)専門学科だけでなく、普通科を含めた形で考えるべきだという話をしている。今回の試みでは、普通科の生徒がマーケティングにチャレンジしており、大変意を強くした。

また、この取組では、「高校生主体の課題解決」と「地域主体の課題解決」がクロスしている。地域社会では(その地域での)高等教育は高校までで、高校が地域社会にとっての「知の拠点」であり得るのではないかと(「知の拠点として」)高校と地域の双方向の取組は素晴らしい、数の増加だけでなく、もっともっとクロスさせることで何か生まれるのではないかと、「クロスイノベーション」が期待されると考えている。

上天草高校では、探究活動の深化が強調されているが、幅広くモノを見るときか学ぶといった横の広がりがあると「クロスイノベーション」「オープンイノベーション」が出てくるのではないかと。次年度は探究活動の中で「横幅を広げる」とよいのではないかと。

産業教育振興会では、STEAM教育のように、横串をいかに通していくか研究している。上天草高校の事業報告は、その先行資料となるのではと期待している。

せっかくの取組なので情報発信にも注力し、「プレゼンスアップ」を図ってほしい。「プレゼンスアップ」することで、地域や学校に人が集まり、人と地域の資源が結びつくことで地域の新しい仕事が生まれ、さらなるよい循環が生まれる。その起点となるのは「プレゼンスアップ」であり、情報発信を心がけることで発展につながる。この事業報告書が「プレゼンスアップ」の起点となることを期待する。

(元田CD) 本事業の構想調書では、上天草市唯一の高等学校として「地域の知の最高学府」という言葉を使っている。我々はその自覚をもって取り組んでいかなければならない。

(堀江委員) この事業を上天草市で精力的に取り組んでいただいていることに感謝したい。上天草市唯一の高等学校なので、いろいろな面で期待するものがあって、我々(上天草市)としても何ができるか考えている。

次年度の課題として挙げられている「つながりの多チャンネル化」や「コンソーシアム機能の強化」については、今後も「阿吽の呼吸」で連携してい

けると考えている。(学校と地域を) マッチングしていくのが市役所の役割なので、相談いただければ解消できると考えている。

この取組のことを生徒はどのように考えているのか気になる。生徒にとっても魅力的な取組である必要がある。行政も一般の市民も高校生に対する期待が大きく、理想を背負わせてご意見をいただくこともあるが、期待がプレッシャーや重石になってしまわないようにしたい。10代の社会に出る前の人材なので、自由な発想のもとにいろいろな考えを勉強していき、想像力を身につける時期。視点を狭くした取組にしないほうが良い。時代はものすごいスピードで変わっている。今の高校生が活躍する時代は今とは大きく変わっているかもしれないので、その時代に必要とされる技術・人材を考える想像力を磨く必要がある。実際、国にデジタル庁が新設されて通信環境が大きく向上することも考えられる。上天草の現状を知り課題を解決するというのはありがたいことだが、将来を想像し「今はないもの」「新しいこと」をテーマに子どもたちが研究することがあっても良いのではないか。

(松富委員) 情報発信が多いか少ないかは一概に言えないが、学校自らがホームページ等で発信するだけでなく、あえて他の媒体(メディア)に報道させて情報に付加価値をもたせることも必要。外の人間から見ても「上天草高校はこんなアプローチで頑張っている」「上天草高校はこんな成果をだしている」ということがしっかり届くと感じる。

(研究主任) パブリシティについては「あマスクしろう」や「しろう部」といった生徒の研究成果の一端をメディアに多く取り上げていただいている。逆にこんなアプローチをしているという探究の仕組みを取り上げていただくのは難しい。どのようなものがメディアに「食いついて」もらえるのか。

(松富委員) 成果はわかりやすく食いつきやすい。今回のコロナステッカーの「あマスクしろう」も映像としてわかりやすく取り上げやすかった。アプローチを取り上げようにも、この取組の肝である住民とのコミュニケーションが、今回はコロナの影響で難しい状況であった。高校生が地域と繋がろうとするプロセスの場面も発信できるようにしてもらいたい。

(田中委員) 私はパブリシティや報道の専門家ではないが、「予想外の成果が出た」というのが、取材する側としては面白いのではないか。私たち研究者も計画を立てて行動して結果を得て、パフォーマンスも高かったという想定内のことより、「(そのつもりはなかったが)こんなことができるようになった」という想定外の結果がでることがある。そのような活動を評価できるのが上天草高校の取組ではないか。例えば熊本地震からの復興に取り組んでいる高齢者は病気をしなくなったと案外言えると感じている。このような「想定を超える結果」や「副次的な効果」がでることを先生たちも狙っているはずで、今

まで想定外を評価する機会がなかったが、この取組は想定外をポジティブに捉えていける。このような想定外がパブリシティとして面白いと思う。

3. パネルディスカッション「地域との協働を根付かせるために」

運営指導委員に加え元田CD、小崎生徒会長を加えてディスカッション。
進行を田中委員にお願いしてディスカッション。以下はその要旨。

(田中委員) 私は、熊本県の「高校の在り方研究会」に参加している。先生ではない自分がそこにいるのは「地域づくり」という視点である。その場で申し上げたのは二つ。

一つ目は、先生方のやりがいは大丈夫かということ。高校の今後は高校生や保護者にとって大切なことだが、そこで働く先生がやりがいのある仕事ができているか、先生方の学びがあって次の職場で生かすことができる環境であることが大事ではないか。

二つ目は、高校側の問題だけ考えては高校の魅力にならないということ。例えば高校は県立、小中学校までは市立、高校生が中学生と協働するには市役所側も考えなければならない。その点上天草市はうまくいっている。上天草の姫戸・龍ヶ岳まちづくりの会議では、行政と地域住民が探し出した地域の課題について、参加した高校生がズバズバと高校生らしい等身大の意見をだしている。これはこの取組の成果が見えていると感じている。

次年度の課題にあるように「つながりの多チャンネル化」は先生の出番であると感じる。生徒たちがまちづくりのための「しろう部」で活動しているように、先生たちも部活をつくってみたら面白い。例えば「釣り部」をつくって、先生たちが地元の漁協の人と仲良くなって生徒の活動に還元したり、ボランティア活動に興味のある先生が、生徒を連れてボランティアに参加したりする。先生は単に学校内だけの先生だけでなく、社会教育の先生であってもよいし、社会教育の場では生徒であってもよい。まちづくりでは、よく「先生徒」という言葉を使う。学校を出れば先生は先生でなくてもよくて、お花を習うときは生徒であり、学びの逆転のような事が起こってもよい。生徒が地域に出たら先生にものを教えることも容易になる。地域ぐるみで学ぶということはまさにそういうことである。

(田中委員) この事業をやるにあたって、市役所では今までの仕事の考え方と上天草高校に仕事を依頼するときの考え方にどのような意識の違いがあるか、堀江市長、教えてください。

(堀江委員) 行政として、上天草高校の生徒にお願いできるものがあれば積極的に考

えている。地域との協働の取組というのは、上天草高校の生徒と地域の方が主従関係ではなくパートナーの関係であることが大事だと考える。大人が生徒に指導する場面があると同時に、大人が生徒の取組を見て気付く場面があるのではないかと。双方が取り組む意義がある形にしていけることが理想。生徒の自由な発想の中に、大人が気づかされることがあれば、この取組は自然と継続していくと思っている。

(田中委員) 姫戸・龍ヶ岳地区のまちづくりでも、生徒と大人が一緒になって課題を見つけることから始めている。生徒が教えてもらうというより、共に学ぶという関係が成立している。探究というのはまさにそういうことで、課題と一緒に探し解決していくという従来とは違う学び方が地域課題解決にはより必要になる。先ほどの事業報告の中でも、「地域にもっと聞きに行く。」などパートナーシップが発揮されていると感じる。

(田中委員) 先ほどの指導・助言のなかで、足立会長から深掘りも大事だが横展開も大事というお話があったので、上天草で横展開するにはどうしたらよいか聞かせてください。

(足立委員) まずは私の専門から申し上げますと、全国的にコロナの問題から非接触の社会経済活動が前提となっている。必然的にICTがどんどん取り入れられるような分野でもDX(デジタルトランスフォーメーション)が重要になってくる。上天草高校でもそういったものを取り入れていかなければ、非連続的な発展のニューノーマル時代に対応できなくなる。

上天草高校は上天草市にとっての「知の拠点」となり得るだろう。例として、阿蘇中央高校の福祉科の生徒が小中学校生と一緒に介護実習を行ったところ、小中学生の介護に対する理解がぐんと高まったという発表があった。このように高度な知識を持った専門家よりも、高校生には素晴らしい能力がある。いろんな勉強をしている高校生は、知の拠点を構成している重要な存在である。学校の先生も同様で、教科情報という専門知識を持った先生が、技術は教えることができるが、教えた内容が社会の中でどのように活かせるかとの質問に実社会での経験が乏しいので答えることができないので、熊本県情報サービス産業協会と熊本県教育振興会情報部会が協定を結んだ。これが横展開の例で、ひとつの技術に特化していくことも大事だが、それが他とどのように絡めば課題解決に繋がるかということも大事である。課題解決に堀江市長が言われたように自由な発想で、横の広がりを持たせるようにする必要がある。

誰もが経験したことがない社会の中では、「とんがった」「異能」と言われ離れた場所に置かれていた人材がイノベーターになり得るのではないかと。

生方にもそのような生徒を大事にしてもらいたい。

地域社会の中でデジタル化がすすめば、デジタルデバインドという面もでてくる。ICT格差が社会的・経済的格差につながるDXの波のなかで誰も取り残さない教育を進めてもらいたい。誰も取り残さないためのリカレント教育の役割も「知の拠点」としての高校に期待している。「上天草高校で学べば何とか将来やっていけるぞ」「お年寄りが携帯を使えるようになった」というような「知の拠点に」上天草高校がなってほしい。

(田中委員) 足立会長からは大きく二つ。一つは学び方。共に学ぶという学び方をもっといろんな人とやっていけるという話。もう一つは、デジタル社会とどう付き合っていくかという話でした。

(田中委員) 小崎さんはICTとかDXとかどう思いますか。

市役所で近づくだけで体温を測れる機械が置いてあったり、今日も目の前にパソコンがたくさん並んでいて、物理的には全国でこの様子を見ることができます。小崎さんは携帯電話の使い方を地域の大人に教えるようお願いされたりできます。

(生徒会長) できると思います。しょっちゅう母に聞かれて教えています。

(田中委員) 彼女たちは「デジタルネイティブ」と言われるICT機器があるのが当然な中で育ってきた世代なので、デジタル社会においては「知の拠点」の構成員として、社会教育の一端を担うことができると思います。

高校生が小中学生に教えるといった活動は上天草高校でも前から行われていますが、小崎さんは小中学生に何かを教えた経験はありますか。

(生徒会長) ボランティアで教えたりしたことがあります。

(田中委員) そういう時、この取組で学んだことが活かしていると思いますか。

小中学生に教える時にどんなことに気をつけていますか。

(生徒会長) 伝え方です。どのようにして伝えれば良いか考えながら教えています。

(田中委員) 小崎さんは意識していないかもしれませんが、「聞く」「話す」「表現する」プロジェクトで、先生たちは伝えるための力を伸ばそうとされていて、小崎さんが「伝え方を考えながら教えている」のは、図らずもこの取組の成果のひとつだと思います。

小崎さんがこの取組で楽しいと思うことは何ですか。

(生徒会長) 上天草の課題をどのようにすれば解決できるか考えるのが楽しいです。

(田中委員) 考えるの楽しい? なかなか大変でしょ?

(生徒会長) 大変だけど、みんなと協力して考える事が楽しいと感じます。

(田中委員) 「一人じゃできないけど、みんなとやると楽しくなる」とか、大人ではなかなか言えないことをさらっと言っている。生徒会長だからできるのかとも思

うが、上天草高校の生徒なら普通に言えることなのかもしれないと感じている。こうやって自分のやっていることを自信を持って話す生徒が育っていることは、上天草市にとってもポテンシャルが高いと思う。

(田中委員) カリキュラム開発等専門家や地域協働学習実施支援員として元田さんが意識していることは何ですか。

(元田CD) 地域おこし協力隊として上天草市に住み始めて、いろんな人と話をして繋がりが持つことができました。学校の仕事をするようになって、学校とこの人をつなげようというより、「この生徒と地域のあの人を会わせてみたい」という気持ちで進めている。生徒は、本当に多種多様な課題を見つけきて探究を進めているので、いろんな会わせたい人がいるなと思うようになりました。同時に「この生徒に会わせるべき地域人材が他にもいるのでは」とも考えるようになり、地域のキーマンと呼ばれる人と繋がることで、足立会長の言われるような横幅を広げていきたい。生徒は、自分自身が興味があることを考えるのが楽しいと言っているので、その興味を広げ、深めるために様々な人材と生徒をどうやってつなぐかということを考えているところです。

(田中委員) 上天草高校の取組は「聞く」「話す」「表現する」という基礎力の部分に重点を置かれている。「誰でもできることをちゃんとやる」というのがベシックなところで、それができているからこそ、人と人の会話ができたり、地域課題の解決にチャレンジしたりできていると思っている。

先生方も教えるという事にやりがいや楽しみを持って仕事をされているが、「ねば」になるとお仕事になってしまう。「図られたもの」に合せていくようになるのではなく、「創造性」や「新しいことにチャレンジする」ということが学びの中にあってほしい。それを「教える」というのも、「伝授する」ではなく「共に探す」立場で、先生たちが「伴走者」としていてほしい。生徒の「困っていること」「わからない」「何がわからないのか分からない」を、先生たちは（知っていることを教えるだけでなく）生徒と一緒に考え、経験の中から「知っている人につなぐ」ことがあっていい。

元田CDは人に注目して、人と人をつなぐのがうまい。技術革新においても、技術を開発しても使い方を考えるのは人。イノベーションは人からしか生まれないので、人と人をつなぐ事で新しいモノが生まれると思っている。

今の上天草で「この人とこの人をつないだら面白い」というのはありますか。

(松富委員) 面白い人はたくさんいる。直近で記事にした、去年Uターンで維和島に移

住してきた革製品の職人さんは面白いと感じた。

(田中委員) 謎かけのようで申し訳ないが、「面白い人」とは、何で面白いのか？

(松富委員) 移住やUターンの話でいうと、10代の頃はそれぞれの夢であったり都市部で暮らしたいという思いを持って、故郷を離れた方が、都市部で働き様々な経験を重ね、何かのきっかけで「地元がいいな」と気付いて帰ってくる。千差万別の思いや物語があって面白いと感じる。

(田中委員) 変化の激しい社会だからこそ、人の人生も変化してしまう。地域おこし協力隊でさえも多様化していて、その地域に住まなくても活動できるようになっている。コロナの影響で、去年まで当たり前だったことが、もう当たり前のようにできない状況になっている。

これは逆に言うと全部チャンスだと捉えることもできると感じている。姫戸・龍ヶ岳地区のまちづくりのワークショップをしていて思い出したのが、島根県の海士町の話である。これからは、ただ漫然と受け入れる成り行きの未来ではなく、意思のある未来を自分たちでつくっていく。未来を選択するというイメージだと思います。未来は必ず来るが、なおざりの「まあまあしょうがないね」という未来ではなく、自身で描いた意思ある未来をいかに勝ち取るかが大切である。決して無理をするというのではなく、「できただけ」で構わないが、少しでも思い描いた未来に近づけたいと話すがおられた。海士町には「ないものはない」という台詞がある。これには2つ意味があって、「ないものはないのだから仕方がない」ので諦めて、あるもので頑張ろうという意味と、「ないものはない、すべてある」と言う意味である。

上天草でもDXで、欲しいものは手に入る状況にある。そのなかでも地域の課題こそ大事な教材で、そこを考えるのが楽しいと言ってくれる高校生がいるということは、上天草はまだまだ学びの場がたくさんあり、地域を変えていくことができる余地があるのではないかと。

(田中委員) フロアの先生方から何かあるか。

(校長) 本研究の目標は「上天草で未来を切り拓く人材の育成」。地域の方の声を入れて、将来上天草で活躍する人材を育てたいと考えている。だからといって「他所に出て行くな」と言えない。私たち教師は「できるだけ広く世界を見せたい」と考えている。外の世界を見なければ、上天草の魅力にも気付くことはできない。25年前の大矢野高校で私が指導した生徒は、今の生徒の親世代となっている。その人たちに話を聞くと、高校まで地元の高校で学んだ人ほど、一旦外に出て行っても地元に戻ってきているようだ。高校でどういう事を学び、経験するか、どのような人間関係をつくるかは、その後の人生に大きく影響すると感じている。

小崎さんは将来の夢があると思いますが、上天草に残ろうと思っていますか。また、上天草にもっとこういうものがあたら人が増えるのにというものはありますか。

(生徒会長) 上天草に残りたいと考えている。上天草にあってほしいものは、買い物ができる場所であったり、みんなが集まるような場所があれば良いと思っている。

(田中委員) 一度(地元を離れ)外に出ることは大事だと思っている。多くの地域の方が同じように思われていて、自分のふるさとを大事してくれるUターンだけでなく、関係人口の話があったように遠くからでもふるさとを応援してくれる人や上天草を好きになって(他所から)来てくれる人も広く受け止めて良いと思う。それが「家賃が安い」というような魅力だけだと、もっと安い家賃の地域が出てくれればそちらに移ってしまうので、そうではない、上天草の本当の魅力に触れることで上天草の魅力が持続可能になる。

小崎さんは、買い物ができる場所やみんなが集まる場所があれば良いと言ったが、それがどういう場所なのか、地域の人と一緒にみんなで考えて欲しい。若い感性で感じるだけでなく、年配の方の話も聞いて、お互いに良い案を探していくことができればよい。

(田中委員) そのようなことをできるのが市役所だと思うが、堀江市長はどのように考えるか。

(堀江委員) 私も28歳に地元に戻ってきた。上天草市以外に住んで俯瞰で自分のふるさとを見た経験がある。離れて初めて「良いところ」や「改善した方が良いこと」が見えてくるような気がする。

この事業での取組においては、生徒にとってシミュレーションで地域課題に取り組むことができる。どんなに失敗しても良いので、思い切ったことを考えていいのではないか。

ひとつ提案したいのは、SDGsを上天草高校のテーマのひとつとして取り上げ、高校生の視点で取り組んでみてはどうか。2050年の二酸化炭素排出量ゼロという大目標がある。他の自治体では「2050年にはゼロにします」と宣言したところもたくさんある。昭和時代に油まみれになって頑張ってきた方ほど、ノンカーボン時代を想像することは難しい。2050年は上天草高校の生徒が働き盛りの時代で、二酸化炭素ゼロ時代のリーダーとなっているはずで、これをテーマに考える事は意義があると思う。

この二酸化炭素ゼロの取組は「苦勞ばかりで利益を生まない」という考えの方もいるので、経済活動と一致させないと決して達成できない。二酸化炭素ゼロの取組をひとつのビジネスモデルとして考えていく、その訓練(経験)

は後々活きると考えている。テーマとして非常に重くて難しく、地域の中でどれだけ意見をもらえるか分からない。しかし、上天草高校主体の事業として、地域に提案していただけても十分価値のあることだと考えている。

(田中委員) SDGsなどの大きなテーマを考えるときも、サステナブルというのがキーワードだと感じていて、「できるしこ」無理せず楽しく進めないとなつかなと思っています。失敗ができる場所で考えることが健全で、市長という立場で失敗はできないが、失敗できる場所で夢を持ってチャレンジできる場として上天草高校は最適である。これは高校にもメリットがあり、他の高校ではできないが上天草高校でならできると聞いたら、中学生もワクワクすると思う。また、アジア太平洋水サミットが熊本で予定されているが、ここで上天草高校がSDGsの研究発表をしてくれたら嬉しい。

(田中委員) そのとき大切になってくるのがDXであったり、産業界との横のつながりだとおもうのですが、足立会長の知見や意見をお聞かせください。

(足立委員) SDGsもゼロカーボンの問題もデジタル抜きでは考えられない。まずは、道具であるICT活用能力をみんなが身につける必要がある。その点においては、高校生の若い感性の方が先生より優れているかもしれないので、高校生が先生に教えることになるかもしれない。産業界でも現場から学ぶことが多く、ビジョンや戦略より現場の力が大事になってくることもある。実現する力は現場力である。

上天草の課題を解決する鍵は現場にあるかもしれない。デジタル技術を生につけることで、その現場をつなぐコーディネーターの役割を高校生が担う事になるかもしれない。生徒会長の「地域課題の解決が楽しい」という言葉を聞いて、このことがこの事業の一番の成果だと感じる。

(田中委員) DXが道具の話であるということ、はっきり言うてくださるのがありがたい。デジタルが何でもしてくれるのではなく、デジタルはあくまで道具で、道具を使う技術を磨くだけが学びではないと感じた。そのうえで、高校生がデジタルを使ってコーディネーションするというのは凄い提案。高校生がスマホを使って、産業をつなぎながらSDGsに取り組むというビジョンが見えてきた。

(田中委員) このようなことをどのように発信すべきか。または、松富さんならどのように伝えたいか教えて欲しい。

(松富委員) 新聞という紙ベースの視点で話をしてきたが、新聞社も紙ベースの情報発信だけでなくSNSでも発信している。面白い話であればトピックとして全国規模ニュースになることも珍しくない。上天草高校でも、うまく話題とタ

イミシングとニュースとしての料理の仕方がマッチすれば、多くの人に情報が届く。

(田中委員) 紙ベースの情報発信はアーカイブや教材として重要だが、クロスメディアも即時性や付帯状況の発信という面での素晴らしさがある。

(田中委員) 今日話を聞いての感想は？

(生徒会長) いつも先生たちに教えてもらってばかりなので、生徒たちが先生に教えることができたならワクワクするはず。

(田中委員) 例えばどんなことを教えてあげられる？

実は「わからない」と先生に伝えること自体が、先生に教えてあげていることになる。上天草高校の先生は良い先生なので、安心して「わからない」「ここは難しい」と口にすることが先生たちの学びになっている。この場合先生たちの学びの場になっている。

(元田CD) 上天草高校の先生たちは、忙しいなかで一生懸命動められている。そのなかで上天草プロジェクトのような探究の授業や個別具体的な学びを実践する授業が増えていくなかで、先生方が一から十まで準備して教えるだけでなくでも良いと思う。地元のことは生徒の方がよく知っていて、「このことはあの人に聞けばいい」という地域のキーマンもよく知っている。先ほど「生徒がコーディネーターになる」という話もあったが、生徒の主体性を育んだり、自分が社会の一員として役立っているという実感を得たりできるので、先生方も、答えを準備するのではなく、生徒や地域に教えてもらいながら、一緒に探究に取り組んでもらいたい。

(田中委員) 今日は上天草高校の先生方に話を聞いてもらったことに感謝したい。運営指導委員会の様子を見ていただいたことで、先生方のやりがいも増えるように、かつ、生徒の学びが豊かになるように我々が議論していることをわかってもらえたと思う。

来年度は最終年度ですが、何か一つでも「こんなことやってみました」という新しい取組をやって、運営指導委員会で教えてもらえたら嬉しいです。成功か失敗より、皆さんが「楽しんでやれた」というのが重要な指標だと思っている。上天草高校で3年間やり遂げたという自信をもって、他の高校での勤務に活かして欲しい。上天草高校での経験をプラスに捉えて、「こんな失敗があったから気をつけて」や「こんなことはおもしろかった」と伝えることで広がって欲しい。

堀江市長の提案のようにSDGsという高い目標にチャレンジするも良いし、報告書にある現実的な目標を達成するも良い。生徒と一緒に先生たちも

何か一つでも挑戦して、ニコニコしながら楽しくやれる取組にしてください。

4. 閉会

- (1) 学校長あいさつ (田中校長)
- (2) 県教育委員会謝辞 (松村室長)

上天草魅力化コンソーシアム第1回委員会議事録

令和2年(2020年)7月9日(木)

13:00~15:00

於 上天草高校視聴覚室

出席者

コンソーシアム委員

- ①小田 心一 東海大学 教学部 九州教学課 九州教学課長
- ②花房 博 上天草市 企画政策部 部長
- ③前方 正広 上天草市 経済振興部 観光おもてなし課 課長
- ④松尾 伸之 上天草市 総務企画部 危機管理情報課 課長
- ⑤山下 勝一 上天草市教育委員会 教育委員
- ⑥赤瀬 耕作 上天草市教育委員会 学務課 課長
- ⑦志村 俊和 上天草市商工会 総務課長
- ⑧須中 一久 上天草市社会福祉協議会 地域福祉係長
- ⑨杉本 健一 天草四郎観光協会 事務局長
- ⑩水野 龍幸 あまくさ農業協同組合 大矢野総括支所 支所長
- ⑪福田 津奈男 上天草市区長連合会 会長
- ⑫芥川 琢哉 天草ケーブルネットワーク メディア事業部 部長
- ⑬福嶋 光浩 上天草市立大矢野中学校 校長
- ⑭岩本 修一 熊本県教育委員会 高校教育課 課長
⇒代理：高校魅力化推進室 松村 加奈子 室長
- ⑮元田 有祈 上天草高校 カリキュラム開発等専門家 (CD; Curriculum Developer)
- ⑯田中 篤 上天草高校 校長

以上18人中16人出席

高校教育課

清本 大介 高校魅力化推進室 指導主事

上天草高校関係者

草原教頭、野崎事務長、浅利研究主任、森川研究副主任

内 容

1. 開会

- (1) 熊本県教育委員会挨拶（松村室長）
- (2) 委嘱状交付
- (3) 出席者自己紹介
- (4) 会長選出
松村室長から、上天草高校田中校長の推薦 → 承認
- (5) 会長挨拶（田中校長）

2. 協議

- (1) 令和元年度事業報告
- (2) 令和2年度第1回運営指導委員会報告
- (3) 令和2年度事業計画

まとめて研究主任浅利が概要を、元田C Dが生徒の研究内容の説明および協力をお願い。

質疑および協議

- (清本指導主事) 生徒のイノシシの研究について、具体的にどのように捕獲する予定か。
- (元田C D) 野生イノシシの捕獲については、捕獲されたイノシシを買い取り、それをジビエ料理にする計画です。
- (清本指導主事) 水俣では水俣高校の機械科製作の“箱罟”を利用している。例えば水俣高校に箱罟の製作を依頼するなどして捕獲のための手段を用意すれば、その後の方向性も見えてくるのではないか。
- (元田C D) 野生動物の捕獲に必要な資格もあるので、高校生が資格を取得するという手もあるが、地元の方が捕獲したものを利用する方向で進めていきたい。
- (松村室長) シードーナッツを活用するプランがあるが、上天草らしさがでていて良いと思う。具体的にはどのように進められるのか。
- (元田C D) シードーナッツのプランは、コロナ禍を含めた上天草市への観光客減少

という課題を解決すべく、コラボ商品の開発やシードーナッツを中心とした新しい観光スポットやアクティビティの開発を考えている。それとは別に、水中ドローンを使ったバーチャルイルカウォッチングを計画している班もある。今後、九州電力協力を得て実際に水中ドローンを動かした実験等を進めていきたい。

(花房委員) 春に上天草市に赴任し、上天草高校の生徒はきちんと挨拶をしてくれるびっくりした。これは、上天草市の特性なのか、上天草高校の特別な取組の賜なのか知りたい。

(田中校長) (上天草高校の) 職員によると、上天草高校は地域の方を講師に招いたりする機会が多く、教員ではない大人と接することが多い。そのことが「地域の方に育てられている」「地域の方に期待されている」という意識に繋がるなど、社会性が育まれている。また、この取組で地域を知ることになるので、地域に対する関心の高まりに繋がって生徒の言動に影響しているのかもしれない。

(花房委員) 先日の運営指導委員会でも高校生と様々な方とのつながりをつくるというはなしがあった。生徒自身は、自分たちの挨拶の素晴らしさに気付いていないかもしれないが、今のような姿勢で就職すれば起業の方は喜ばれるはずだ。市としても宮津開発プロジェクトなど生徒が活動する場を提供し、生徒が様々な経験ができるよう後押ししていきたい。

(小田委員) 生徒の研究テーマを見て、東海大学としてお手伝いできそうなものがたくさんある。持ち帰って学内で検討したい。コロナ禍の影響で学生が大学にいない状況なので何とも言えないが協力できればと思っている。

(元田C D) 高等教育機関との連携は、是非進めていきたい。科学的知見の提供や実験の指導や機械での測定といった側面と大学生と一緒に活動するといった側面で大学に協力いただくと、本校の取組も飛躍的に深化すると考えている。どのようにマッチングさせるかが問題なので、生徒の研究テーマを逐次共有するので、連携の可能性を教えていただけると助かる。

(福嶋委員) 上天草高校の生徒は非情に良いと思う。赴任したばかりでどのような連携ができるか未知数だが協力していきたい。

(小田委員) 生徒のビジネスプランに近い取組が、他の団体によって実現したという報告があるが、高校生がその一歩を踏み出せなかった原因は何かあるのか。

(元田CD) 規模の大きく協力先を見つけることができなかつたり、高校生はアイデアの段階であったが、他の団体が先に実現してしまったなどある。生徒は「自分たちのアイデアに近いものが実現している」とプラスに捉えているので、今後は生徒自身も思い切って取組めるのではないかと期待している。

3. 開会

(1) 会長謝辞(田中校長)

上天草魅力化コンソーシアム第2回委員会議事録

令和2年(2020年)10月29日(木)

10:00~12:00

於 上天草高校視聴覚室

出席者

コンソーシアム委員

- ①小田 心一 東海大学 教学部 九州教学課 九州教学課長
- ②花房 博 上天草市 企画政策部 部長
随員：上天草市役所 企画政策部 企画政策課 泉田 利博 氏
- ③前方 正広 上天草市 経済振興部 観光おもてなし課 課長
- ④松尾 伸之 上天草市 総務企画部 危機管理情報課 課長
- ⑤山下 勝一 上天草市教育委員会 教育委員
- ⑥赤瀬 耕作 上天草市教育委員会 学務課 課長
- ⑧須中 一久 上天草市社会福祉協議会 地域福祉係長
- ⑩北岡 秀敏 天草漁業協同組合 上天草総合支所 総合支所長
- ⑬福田 津奈男 上天草市市長連合会 会長
- ⑭芥川 琢哉 天草ケーブルネットワーク メディア事業部 部長
- ⑮福嶋 光浩 上天草市立大矢野中学校 校長
- ⑯岩本 修一 熊本県教育委員会 高校教育課 課長
⇒代理：高校魅力化推進室 松村 加奈子 室長
- ⑰元田 有祈 上天草高校 カリキュラム開発等専門家(CD;Curriculum Developer)
- ⑱田中 篤 上天草高校 校長

以上18人中14人出席

高校教育課

清本 大介 高校魅力化推進室 指導主事

上天草高校関係者

草原教頭、野崎事務長、浅利研究主任、森川研究副主任

内容

1. 開会

(1) 熊本県教育委員会挨拶(松村室長)

(2) 会長挨拶(田中校長)

2. 協議

(1) 進捗状況の報告および今後の予定

研究主任浅利が報告。

- ・令和2年度コンソーシアム活動計画の進捗状況および変更について
- ・令和2年度研究成果発表会の概要について
- ・学校設定科目の進捗状況および変更について
- ・各種活動の様子について
- ・生徒の研究内容について(元田CD)

質疑および協議

(小田委員) 生徒の研究について、目立った活動しているグループはホームページ等で紹介されているが、その他の活動についても報告頂きたい。

(元田CD) 各班学校外の団体と結びつきながら研究を進めている。

「イルカで地域活性化」：九州電力と協働。水中ドローンの体験を実施。学校のプールでの実験や実際にイルカを撮影できるか実証実験を予定。

「ジビエプロジェクト」：外部団体との連携を模索。

「天草名物をつくろう」：市内の洋菓子店でのレクチャー。

「消臭剤」：市場調査の実施。

「モリンガ商品開発」：現地見学およびインタビューの実施。

「パール柑商品開発」：試作の準備。など

(松村室長) 生徒の研究が多岐にわたっているが、外部の連携先を探すのに苦労され

ていることはないか。

(元田C D) 生徒の希望に合わせて市内の関係先に連絡しているが、二つ返事で引き受けて頂いているので順調。今後1年生もマッチングさせていくので、コンソーシアム委員で生徒の研究課題をご覧頂き、紹介できるものがあれば教えていただきたい。生徒の研究内容も刻一刻と変化しているので、最新の情報を共有できるように努めたい。

(赤瀬委員) 上天草市の地方創生の取組として小中学生の起業家教育が上天草高校の取組と同時にスタートした経緯がある。年を経る毎に発展的・計画的な事業構成になってきている。現在、上天草市では来年度の計画に取り組んでいるが、3カ年の最終年度は自走に向けた活動の方法を協議している。上天草高校の取組も、発展的で子どもたちの成長が見えてきている活動なので、自走に向けて内容を詰めていく必要を感じる。

(研究主任) まさに3年目の目標として、自走できる仕組みの確立も含めて計画していきたい。事業開始時に立てた「コンソーシアムで培ったノウハウや機能を、コミュニティ・スクールにおける学校運営協議会で引き継ぐ」という計画が実現できるようにしたい。現在も上天草市役所に講師の派遣を含めたコーディネイト機能の一端を担ってもらっているため、今後も継続して地域と学校が結びつく仕組みを維持したい。

(田中委員) 小中学校の蓄積を高校で活かすためにも、是非本校に入学して欲しい。

(赤瀬委員) 中学校の活動でも、県事務所や地域の企業の協力を得られている。小中高の連携により同じ取組として継続可能な取組にしたい。

(2) 学校設定科目「地域イノベーション研究」の開発

元田C Dによるワークショップ「地域イノベーション研究で生徒に身につけて欲しい力とそれをどのような方法で身につけさせるか。」を実施。以下成果発表表の内容。

A班 (小田委員、前方委員、北岡委員、田中委員)

(身につけさせたい能力を)【コミュニケーション能力】【広い視野・関心】【積極性】の3つとし、【広い視野・関心】と【積極性】をまとめて身につけさせる方法を検討。

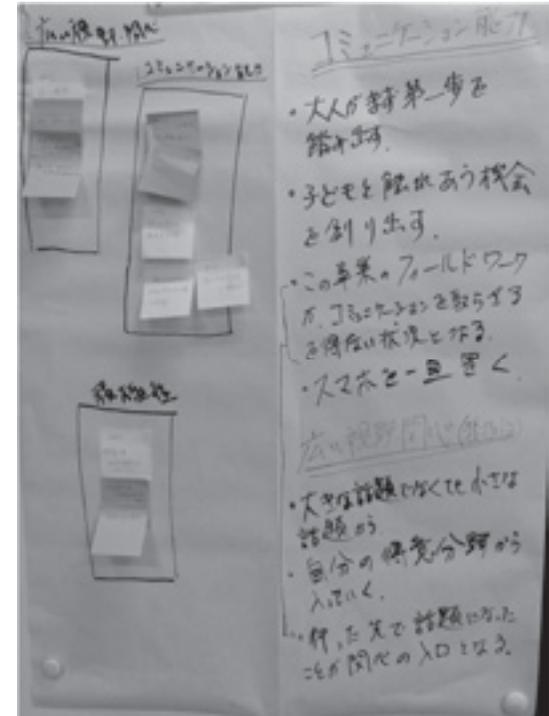
【コミュニケーション能力】については、まず大人が変わる。大人が子どもたちに声をかけるなど大人たちが第一歩を踏み出すことが大切。

そして、子どもと大人が触れあう機会を多く創り出す必要がある。

そして、この事業で行われているフィールドワークで子どもたち「なぜ？」を「関心の入口」として、(フィールドワークに)行った先でコミュニケーション能力を身に

つけたり、身につけなければならないと感じることができないのではないかな。

【広い視野・関心・積極性】については、広い視野と言ったら大きなニュースと思いがちだが、小さな話題でも、自分の得意分野からでも良いから関心を持ってもらって、一步一步取組んでいき姿勢を身につけてもらいたい。



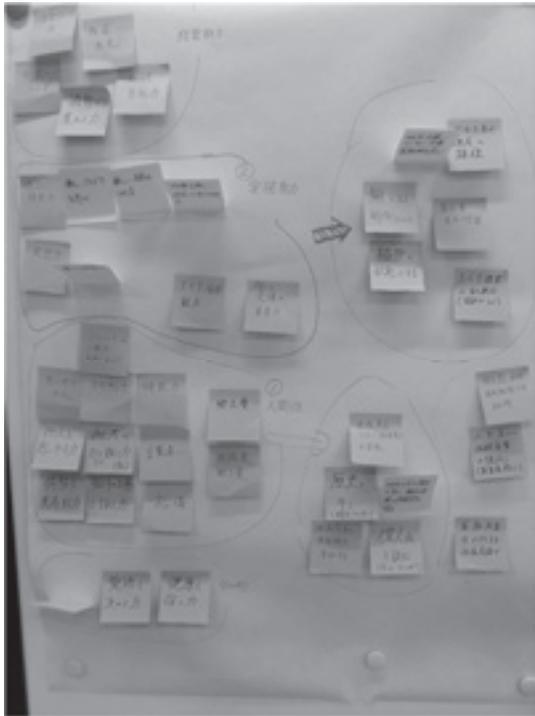
B班 (花房委員、芥川委員、福嶋委員、草原教頭)

身につけてほしい能力を【経営能力】それを実行する【実務能力】、そして【人間性】とその他に分類。この中でもまず身につけて欲しいのが【人間性】なので一番に、その次に【実務能力】が必要だと考え、育成方法を考えた。

【人間性】育む上で重要なのが郷土愛で、その他礼儀や言葉遣い、思いやりの心といった人間性としての基本がなっていないと、その後の成長に繋がっていかないという意見がでた。実際に人間性を育むためにどういったことをするかで、郷土愛に対しては、とにかく地域の事を知ってもらうため、地域のスポットを巡ったり、地域の歴史を学んだりする活動を行う。地域の偉人伝や地域の行事に積極的に参加できるようにしてもらいたい。また、思いやりの心を育むために、保育園や福祉施設での研修を行

い、社会的弱者と触れあう機会を設ける。その他にもとにかく積極的に地域の方と触れあう機会を設けてもらいたい。

次に【実務能力】については、商品の開発力や発想力、これからの社会では、英語力やICT活用能力が必要なので、このような能力を身につけるための方法を出し合った。まずはICT技術の研修を行い、現場を見たり講師として専門家を招くことでICT活用能力を身につけてもらいたい。この他にも基本的な勉強として、経営や商業に関する勉強を情報会計科以外の生徒も学ぶ機会を設けることができれば良いと考える。



C班（松尾委員、山下委員、清本指導主事、野崎事務長）

身につけさせたい能力を【発想力】と【チャレンジ精神】にまとめた。これをどのようにして身につけさせるか意見をだしあった。

【発想力】については、アイデア商品の開発について学んだり、情報収集をすることで身につくのではないかと考えた。地域を見つめ直し、「あるものないもの」や「地域の課題について実践できそうなもの」を出し合うミーティングを開いたり、自分の得意分野でみんなと話し合ったりすれば良いのではないかと考えた。

【チャレンジ精神】については、「まずやってみる」「まず実践」が大切で、失敗から学ぶことの大事さを知ることや、失敗の理由を分析する経験を積み重ねると、自ずとチャレンジ精神が身につくのではと考えた。また、お金が絡むとチャレンジ精神が出てくるとも考えられる。



D班（赤瀬委員、須中委員、福田委員、泉田氏、松村室長）

他の3班とほぼ同じ内容であったが、少し違うのが【考える力・創造】。物事を自分事として考える力をひとつの命題として考えた。それに関わる能力として【分析力】であったり【想像力】【情報収集力】をまず身につけること。その後、地域の事業所を見て、実際にモノに触らせてもらって気付く現状を知ること。気付いた課題を解決するために必要な力（例えばICT技術）が何であるか気付くような経験をする事で、もっとたくさんのことに気付くことができる。

2番目に検討したのが【行動力】で、達成できそうな目標だけでなく、高い目標を持ってチャレンジすることで、みんなが頑張るのではないかと考える。

【コミュニケーション能力】について、自分からあいさつする、感謝の言葉を伝え

るなどすることから始めると良い。



3. 開会

(1) 会長謝辞 (田中校長)

上天草魅力化コンソーシアム第3回委員会議事録

令和3年(2021年)3月12日(金)

10:00~12:00

於 上天草高校視聴覚室

出席者

コンソーシアム委員

①小田 心一 東海大学 教学部 九州教学課 九州教学課長

- ②花房 博 上天草市 企画政策部 部長
 随行：上天草市役所 企画政策課 地方創生係 泉田 利博 氏
- ④松尾 伸之 上天草市 総務企画部 危機管理情報課 課長
- ⑤山下 勝一 上天草市教育委員会 教育委員
- ⑥赤瀬 耕作 上天草市教育委員会 学務課 課長
- ⑩岩本 修一 熊本県教育委員会 高校教育課 課長
 ⇒代理：高校魅力化推進室 清本 大介 指導主事
- ⑱田中 篤 上天草高校 校長
 (欠席)
- ③前方 正広 上天草市 観光おもてなし課 課長
- ⑦志村 俊和 上天草市商工会 総務課長
- ⑧須中 一久 上天草市社会福祉協議会 地域福祉係長
- ⑨杉本 健一 天草四郎観光協会 事務局長
- ⑪水野 龍幸 あまくさ農業協同組合 大矢野総括支所 支所長
- ⑫林田 敏男 あまくさ農業協同組合 上総括支所 支所長
- ⑬北岡 秀敏 天草漁業協同組合 上天草総合支所 総合支所長
- ⑭福田 津奈男 上天草市区長連合会 会長
- ⑮芥川 琢哉 天草ケーブルネットワーク メディア事業部長
- ⑯福嶋 光浩 上天草市立大矢野中学校 校長
- ⑰元田 有祈 上天草高校 カリキュラム開発等専門家

以上18人中7人出席

上天草高校関係者

草原教頭、野崎事務長、浅利研究主任、森川研究副主任

内 容

1. 開会

- (1) 熊本県教育委員会挨拶 (清本指導主事)
- (2) 会長挨拶 (田中校長)

2. 協議

- (1) 令和2年度事業報告
 研究主任浅利が報告。

質疑および協議

(清本指導主事) 上天草プロジェクトⅡにおいて、班ごとの活動計画は立てたか。また、研究が進まないグループに対してどのような働きかけをしたか教えて欲しい。

(研究主任) 班別の計画の提出は求めている。原則4人1班で活動しているが、2班につき1人の職員が指導にあっており、担当職員と相談しながら活動を進めている。また、元田CDが研究の進捗状況の把握と軌道修正を行っている。研究が行き詰まって困るようなことは起こっていない。元田CDがメンタル面のケアまで行っている状況である。事業終了後に元田CDがいなくなる不安の方が大きい。

(小田委員) 探究活動は授業の中のみで完結しているか、または放課後等を使って活動している事例があるか。

(研究主任) 授業内で出来るだけ収めるよう調整している。しかし、放課後や休日に取材に出かけるような例もある。以前は一部の有志生徒が、放課後や休日を使って活動していたので、部活動との両立などで負担感を覚えていたが、授業中に時間を取れるようになったので、全員が主に授業中に活動し、少しだけ放課後や休日に活動するので、負担感は少なくなった。

(小田委員) 逆に、「もうちょっと放課後を使って活動したい」と思っている生徒はいたか。

(研究主任) 先方の都合に合わせて、放課後や休日に活動した生徒はいたが、自主的に放課後に目立った活動をする生徒は見えない。

(花房委員) 先日の生徒研究成果発表会で、質疑応答の形で生徒と意見を交わすことができた。発表の題材やプレゼンの仕方については、高校生とは思えないくらいの堂々とした発表で驚きと感動を感じた。高校生の自発的な研究の取り組みは、進学した後や就職した後にとっても役に立つと思った。我々審査員の質問が少し高校生に対してはレベルが高すぎて、受け答えが難しかったかもしれないが、的外れでもいいので積極的に大人にぶつけるようなつもりでの受け答えが加わるとさらに成長していくと感じた。先生方には、質問に対して自由に受け答えできるよう、アドバイスをお願いしたい。

(赤瀬委員) 市の教育委員会では、起業家教育について、全体的な統括をする推進委員会、各学校の担当者の実施委員会、各学校の委員会の3つのパターンの委員会を運営している。

そこで感じたのは、高校の先生達と中学校の先生達の危機感に大きな差

があるということ。市として新たに起業家教育を始めたので、中学校の先生方は「仕事が増える」という認識であった。しかし、年間を通して活動し、生徒の成長が見えたことで、先生方の起業家教育への見方が変わってきた。今後この活動を継続していくためには、実際に担当していない中学校の先生達にも、その有効性を理解してもらうことが非常に重要だと感じる。上天草高校では 将来の目標を踏まえて体系的組織的に事業を進められているので、上天草高校の取組を中学校の先生方に伝えて欲しい。

そこで提案したいのが、新年度に各中学校の担当者を集めて会議を開く際に、高校の取組を紹介して頂けると助かるかどうか。

また、この事業に対する大学の興味はいかほどのものか小田委員に尋ねたい。

(小田委員) 大学としてもこの事業にどのように取り組むべきか工夫している。高校から依頼があった内容については、積極的にアドバイスをを行うようにしている。また、今までは移動講座という形で各高校に足を運んでいたが、今はリモートで講座ができないか検討している。高校からはできるだけ具体的に要望を伝えてもらえると動きやすいと考えている。

(田中校長) 中学校との連携に関しては当然深めていきたいと感じている。この活動が生徒たちの資質能力を成長させると思っているのも、質を高めるためには、中高の連携を図っていくことが効果的だと考えている。結果として、本校に入学してくれる生徒が増えれば良いとは思っている。

中学校の会議に研究主任を参加させることについては、高校側も中学生の実態を把握できる良い機会なので、実現できるように協力させていただきたい。このような取組は、通常の授業のようにカリキュラムがはっきりしているわけではないので、「手探りで」「生徒の反応を見ながら」「その時々地域の方々の都合を考えながら」やっている。そのように活動する中での悩みや苦労を共有する会になれば良いと思うが、「高校でのやり方を中学校でもやってください」と受け取られないように気をつけたい。

小田委員に言っていたように、大学との連携が本校の課題だと思っている。今の段階では、個別に大学の先生にアドバイスをもらうことなどは行なっている状況だが、将来的には、大学の授業を高校で先取りしてやる、または、大学の単位を取得することも考えられる。大学の入試制度が変わり、試験の成績だけではなく、高校までにその生徒がどのような学習を行い、どのようなことに興味・関心を持ち、大学で何をやりたいのかということも評価していただく、総合選抜を採用する大学も増えている。そのような大学に進学を考えている生徒にとって、この取組でやった活

動が、将来「このような勉強をやりたい」などの具体的な目標につなげていけるようにしていきたい。具体的に大学に対し、どのような取組をしていくかということは、明確ではないが、高校で研究したテーマを持って、大学に進学する生徒が出てくればいいと思っている

(小田委員) 大学では、単位の認定まではいかないにしろ、高校生に対する模擬授業を行っている。また、大学生対象に「チャレンジプロジェクト」という取組も行っている。これは、大学が研究費用を負担し学生の研究を応援している取組で、代表的なものはソーラーカープロジェクトがある。熊本で言うと「援農プロジェクト」と言って高齢者の農家に行って、授業では得られないノウハウを教えてもらうなどの活動がある。熊本地震で農業をやめようと考えられていた農家に、学生が足を運び一緒に活動したところ「大学生が手伝ってくれるのであればもう一度頑張ってみよう」と思って頂いた例もある。もし要望があれば、高校生に対して大学の教員だけでなく大学生によるアドバイスまたは協働活動もできるとしている。

(田中校長) 学生さんに高校生の研究に対してアドバイスいただくことはとても良いと思う。年齢も近いので相談しやすい相手だと思う

(2) 令和3年度事業計画
研究主任浅利が説明。

質疑および協議

(赤瀬委員) 今年度は上天草バザールの会場で中学生の研究発表大会を行ったが、ホールなどを利用した発表会にすれば保護者なども観覧できるので、より効果的だという意見が出された。先ほど高校から、中学校と合同の研究発表会のアイデアが出されたが、市教育委員会としても調整していきたいと思う。

気になるのは予算についてである。事業終了後高校生と中学生の交流にかかる費用をどのように捻出する計画でいるのか教えて欲しい。

(清本指導主事) 令和3年度から高校魅力化きらめきプランという事業を予定している。そこでこういった地域と連携した活動における費用を負担できるように考えている。

(赤瀬委員) 中学校と高校の交流をリモートで行いたいのが、高校側の ICT 設備はどうなっているか。

(草原教頭) 本校は ICT の推進実践校になっている。新2年生と新1年生に一人一台のタブレットが整備されている。Wi-Fi の整備が予定より遅れているが、新年度のスタートには整備される。また、モバイルルーターも整備

されるので様々な状況に対応できると考えている。

(赤瀬委員) リモートにおいて、小さいモニターでは複数人数の会議に適さないとと思う。大型提示装置はどうなっているのか。

(草原教頭) 電子黒板も既に整備されている。次年度以降はリモート会議にも対応できる状況にある。

(花房委員) 上天草高校の生徒の活動をいくつか見たが、上天草高校の生徒を市役所にリクルートしたいと思える。上天草高校の生徒は、様々なことを経験し学んでいる。正直自分の所属する組織に採用したい。せっかくこのような素晴らしい活動をしているので、上天草に残り、上天草市役所で地域の課題解決に力を貸して欲しい。

上天草高校は人材の宝庫だと感じている。地域課題の解決について上天草高校の生徒だけでなく先生方とも意見交換をしながら、上天草の魅力向上につなげていきたい。

3. 開会

(1) 会長謝辞 (田中校長)

3 探究活動自己評価（ルーブリック）

上天草プロジェクト 「探究活動」自己評価

班ごとの探究活動において、下の4つの場面（観点）で、自分がどのように行動できたか、4～1であてはまるものを1つ選び、回答欄に記入してください。

評価 観点	4	3	2	1
課題の設定	上天草の現状（困り事）を踏まえ、班員と協働しながら、主体的に班の課題設定に貢献した。	班員と協働しながら、主体的に班の課題設定に貢献した。	教員に促され、主体的に班の課題設定に貢献した。	教員に促され、班の課題設定に参加した。
情報の収集	班員と協働しながら、主体的に必要な情報を収集し、課題解決に十分なデータの蓄積に貢献した。	主体的に必要な情報を収集し、課題解決に十分なデータの蓄積に貢献した。	教員に促され、主体的に必要な情報を収集し、課題研究に十分なデータの蓄積に貢献した。	必要な情報を収集しようとしたが、課題研究に十分なデータの蓄積にあまり貢献できなかった。
整理・分析	班員と協働しながら、事実や事実間の因果関係を推理するなど、収集した情報から自分なりの考えを形成し、意見を述べる事ができた。	事実や事実間の因果関係を推理するなど、収集した情報から自分なりの考えを形成し、意見を述べる事ができた。	教員に促され、事実や事実間の因果関係を推理するなど、収集した情報から自分なりの考えを形成し、意見を述べる事ができた。	収集した情報を整理・分析し、自分なりの考えを形成しようとしたが、意見として表現する事ができなかった。
まとめ・表現	研究の結果を表現するにあたり、客観的で論理的な考察を示すことができ、明確な根拠（証拠）を持った結論をわかりやすく表現できるよう、積極的に活動した。	研究の結果を表現するにあたり、わかりやすく表現できるよう、積極的に活動した。	研究の結果を表現するにあたり、与えられた役割を果たす事ができた。	研究の結果を表現するにあたり、教員に促されて、与えられた役割を果たす事ができた。

4 成果物

熊本県スーパーハイスクール生徒研究発表会 研究発表ポスター

「廃校サバイバル」

廃校を有効活用することで、管理費の軽減ならびに利用者誘致による経済効果を図るビジネスプランの研究。

熊本県立上天草高等学校2年(上天P2班)

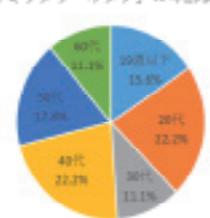
ビジネスプランの概要および

- ・廃校・商厦を
サバイバルゲームのフィールドとして活用
- ・土地・建物の所有者は
家賃収入を得ると共に管理費を軽減
- ・運営会社は、
管理を請け負う代わりに収益事業を実施
- ・顧客が市外から訪れることで
地域経済への波及効果も期待
- ・地元の子供が集える場所として
将来の地域外流出の減少

「サバイバルゲーム」とは？市場規模は？

主にエアソフトガンと弾を使っで行う、概ね20世紀以降の銃器を用いた戦闘を模した日本発祥の遊び、あるいは競技。敵味方に分かれてお互いを撃ち合い、弾に当たったら失格となるのが基本的なルール。(中略)統一されたルールは存在せず、グループや大会、フィールドごとにルールは異なる。サバイバルゲームにおけるルールは一般的にレギュレーションと呼ばれる。(出典:フリー百科事典『ウィキペディアwikipedia』)

「ミリタリーオタク」の年齢構成



サバイバルゲームに興味を示すであろう「ミリタリーオタク」は日本国内に約79万人いると推計。左図のように全世代に一定程度が存在しており、男女比は87.8%:12.2%。オタク歴については1年未満が27.8%と最も多い。一方、30年以上が20.0%と初心者とベテランに2極化する構造となっており、平均は13.4年。「ミリタリーオタク」を自認する層が「ミリタリー」にかける金額は平均で年間24,178円が46.7%と最も多く、1~5万円未満が21.1%と続く。2016年9月矢野経済研究所調べ(出典:矢野経済研究所×ビジネスウェブサイト)

具体的なサービスの内容

- 「1人で」「手ぶらで」参加できる
参加者をゲーム毎にチーム分けして実施。レンタル装備を用意することで手ぶらで参加することも可能にする。
- 週末毎にイベントの開催
参加者の習熟度に合わせて「上級者」「初心者」「シニア」「親子」「女性」向けのイベントを実施することで、幅広いカテゴリーの顧客獲得を目指す。
- 取り壊しまでの期間を利用して様々な場所を用意
新しいステージでマンネリ化を防ぎ、リピーターを獲得。
- 様々なレギュレーションで飽きさせない工夫
サバイバルゲームは、1ゲーム15分程度とし、1日で複数回参加できる。「フラッグ戦」「防衛戦」「バトルロイヤル」など様々なレギュレーションを用意する。
- 10歳以下も参加できるイベントの開催
法規制でソフトエアガンが使用できない10歳以下も参加できる「親子兄妹銃大会」を実施。これにより母親層の需要喚起と将来のヘビーユーザー獲得を目指す。

「ミリオタ」以外の新規ターゲットの設定

【20代男性】と【30代女性】を開拓すべきターゲットに設定。ペルソナを作成し具体的なバリュープロポジションを考える！

ゴルフ	登山	映画鑑賞
旅行	宝探し	犬・子ども
読書	音楽	美術館
アウトドア	キャンプ	ほぼほぼ
行楽地	行楽地	インドア派

25歳男性 32歳女性

- 【25歳男性】へのプロモーション
体を動かすことを厭わないので、「サバイバルゲーム初心者イベント」を開催することで誘引する。また、女性との出会い演出のためにBBQとセットのイベントを開催。キャンプ場に乗って「野営キャンプ講習」など初心者へヘビーユーザーへと育てる。
- 【32歳女性】へのプロモーション
子どもとの活動を重視するので「親子大会」の実施。子どもと一緒に体を動かさずダイエット効果もPR。家族みんなでヘビーユーザーになるよう働きかけ。予約制の送迎バスを準備することで車がなくとも参加できる。

収支計画

初年度						5年後					
項目	単価	数量	小計	金額	備考	項目	単価	数量	小計	金額	備考
収入合計				¥21,790,900		収入合計				¥25,762,500	
支出合計				¥22,140,900		支出合計				¥25,180,000	
収支				¥-350,000		収支				¥582,500	
収入	入場料収入	(男性) ¥2,900	5,700	¥17,880,000	5年後の想定は希望者数80%を想定	収入	入場料収入	(男性) ¥2,000	6,711	¥13,422,000	毎年新規開始者の50%が年1回のユーザーとなる想定
		(女性) ¥2,900	1,130	¥3,267,000				(女性) ¥2,000	1,750	¥3,500,000	
		割引		¥0				割引		¥0	
	レンタル料	¥2,900	1,030	¥2,972,000	新規ターゲットの来場者から		レンタル料	¥2,000	1,030	¥2,060,000	新規ターゲットの来場者から
	運営	(月) ¥200,900	12	¥2,400,900	¥2,400,900		家賃	(月) ¥200,000	12	¥2,400,000	¥2,400,000
	人件費	(年) ¥4,800,000	4	¥19,200,000	熊本県の平均年収¥4,800,000		人件費	(年) ¥4,200,000	4	¥16,800,000	新雇した1人
	消耗品	缶詰 ¥12,900	50	¥600,000	制限を設けた1年の消費品とする		消耗品	缶詰 ¥12,000	50	¥600,000	2年目以降は新規購入と維持費で同程度の予算を確保する
		マスク ¥4,900	50	¥200,000	が実用は2~5年使用できると考えられる。			マスク ¥4,000	50	¥200,000	
		缶卓 ¥6,900	50	¥300,000				缶卓 ¥6,000	50	¥300,000	
	大	送料 ¥1,800,000	1	¥1,800,000	初年40万円、5年後半減4年		大	送料 ¥1,000,000	1	¥1,000,000	送料削減(送料削減率50%)を想定
送迎バス	(月) ¥25,900	12	¥310,800	毎月1回送迎バスを運行(送迎バスは送迎料のみ、バス代は含まれない)	送迎バス	(月) ¥25,000	12	¥300,000	毎月1回送迎バスを運行(送迎バスは送迎料のみ、バス代は含まれない)		
	(年) ¥200,900	1	¥200,900			(年) ¥200,000	1	¥200,000			
水道光熱費	(月) ¥50,900	12	¥600,000	¥600,000	水道光熱費	(月) ¥50,000	12	¥600,000	¥600,000		
広告宣伝費	(月) ¥10,900	12	¥120,000	¥120,000	広告宣伝費	(月) ¥10,000	12	¥120,000	¥120,000		
印刷費	(年) ¥200,900	1	¥200,900	¥200,900	印刷費	(年) ¥200,000	1	¥200,000	¥200,000		
予備費	(年) ¥100,900	1	¥100,900	¥100,900	予備費	(年) ¥100,000	1	¥100,000	¥100,000		

※「BBQイベント」「子どもの参加料」はプロモーション施策で、「別料金なし」の実費と同等と考え収支計画には載せていません。

かみネマ 映画による地域活性化

上天草に映画文化を根付かせるイベント活動を継続することで、将来的に起業を目指すビジネスプランを研究。

熊本県立上天草高等学校2年(上天P11班)

①研究のきっかけ・目的

上天草市には映画館がなく、映画を見るには、熊本市内までの交通費がかかる。特に私たち高校生は“気軽に映画を楽しめる”という状況にはない。

“映画館で映画を見る”という行為は、家庭でのDVD鑑賞といった、単に“物語を鑑賞する”とは違う体験だ。これを体験する機会が少ないことは、私たちにとって大きな損失である。そこで、映画を見ることのできる機会や施設を企画したいと思った。さらに、地域で上映することによって地域の人々との交流の場になれば、地域活性化につながると思い研究を開始することにした。

②上天草の高校生が映画を見る費用

1. 熊本市街までの交通費(すべて往復)

(JR利用)	
バス:大矢野庁舎前～三角産交	¥800
JR:三角駅～熊本駅	¥1,520
市電:熊本駅前～幸島町	¥340
	¥2,660

(快速バス利用)

大矢野庁舎前～桜町バスターミナル	¥2,660
------------------	--------

2. 映画鑑賞料

高校生	¥1,000
合計	¥3,660

③上天草市の市場規模は

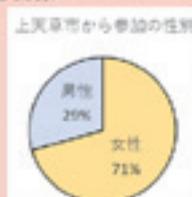
2017年の入場人数は174,483千人(のべ人数)。日本人総人口を1億2670万人とすると、単純に1人当たり年間1.4回映画館で映画を観賞したことになる。また、映画を1回鑑賞するのに使う平均額は¥1,310である。
(出典: 2020 数字でみる世界～数字で見る「日本映画」～)

上天草における映画の市場規模
(上天草市の人口) 26,280人
26,280人×1.4回= 36,792回
36,792回×¥1,310
=¥48,197,520

④上天草ムービーフェスティバル

上天草で撮影された「鳥のシーグラス」や「声」のほか、人気の短編映画を上映する映画祭「上天草ムービーフェスティバル」が令和2年1月19日に松島総合センター「アロマ」で開催された。この映画祭は、「鳥のシーグラス」をきっかけに“映画で町おこしをしたい”という志の方々が企画し、映画を通して多くの方々が集まりました。入場無料ということもあり約330人の観客を達成。

私たちがボランティアスタッフとしてお手伝いすると共に、映画に関する意識調査を実施した。(81人から回答)



また、¥1,000～¥1,500程度なら入場料を払ってでも参加したいとの調査結果を得た。

⑤ビジネスプランの概要

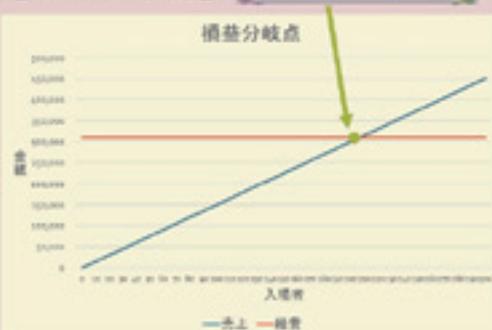
- ・地域のホール等で映画の上映会を実施する
→当初は月1回、回数や開催場所を増やす
- ・市内飲食店や特産品販売のブースを設ける
→出店料は各ブースの売上25%
- ・映画鑑賞代金は¥1,500に設定
→上記「②映画を見る費用」より割安感を重視
- ・上映する映画は、来場者アンケートで決定
→調査結果から女性ウケする映画を検討
- ・上天草に映画文化を根付かせる
→人々の交流の場として機能して欲しい
- ・将来的に常設の映画施設の設置を目指す
→飲食店での上映会や観客対象の商品開発
→収益を安定化し、ビジネス化を目指す

⑥収支計画(利益計画) ※1回イベント1回につき

区分	項目	計算の基礎	金額	備考	
収益	映画鑑賞料	¥1,500×250人	¥375,000	250人の集客を想定	
	出店料		¥0	平準化事業が多いので考慮しない	
収益合計			¥375,000		
費用	上映料		¥150,000	レンタル料は高めに設定	
	人件費	上映スタッフ	¥1,200/h×5h×2人	¥12,000	
		接客スタッフ	¥900/h×5h×7人	¥31,500	
	施設費	会場使用料	¥7,500/h×5h	¥37,500	アロマホールを想定
		音響・照明	¥25,000/日	¥25,000	
		プロジェクタ	¥5,000/h×5h	¥25,000	
		空調	¥3,000/h×5h	¥15,000	
広告宣伝費		¥10,000	広告掲載とSNSのロコミ		
費用合計			¥306,000		
利益	イベント1回あたりの利益		¥69,000+テナント出店料		

【CVP分析】

入場者205人で利益が発生



1回毎の利益を確保しながら将来的な企業を目指します！

パール柑を使った商品開発

～特産品の知名度をあげろ！～

上天草の特産品のひとつ「パール柑」。加工品を開発することで、生産者の収入安定と知名度アップを図る研究。

熊本県立上天草高等学校2年(上天P9班)

I. きっかけ

私たちは上天草の事を知るために「地域理解講座」において上天草の現状を勉強してきました。上天草の特産品について興味を持った私たちは、「みずの果樹園」さんに上天草の現状についてインタビューしました。

「せっかく生産したもので、見た目が悪いなどいわゆる「規格外」のものは泣く泣く廃棄しています。みずの果樹園では、他の果樹園で廃棄されるものも買い取り、加工品の原料として使っています。加工品を作ることで、上天草全体のアピールにつなげていきたいと思っています。」という話を伺いました。そこで、私たちは地元産品を使った商品開発に取り組むことになりました。

II. パール柑の加工品を！

みずの果樹園さんと話をする中で、パール柑を使った加工品が少ないことを知った私たちは、パール柑の知名度アップと廃棄する量の軽減を目的として、パール柑を使った新商品を、みずの果樹園さんと共同開発することにしました。

パール柑とは・・・ (以下出典:道の駅 上天草さんばーる ホームページ)

パール柑は文旦の血を引く品種で爽やかな風味と、さっぱりとした上品な味わい、果肉がしっかりとついて皮がむきやすく、食べやすいのが特徴です。外皮の美しさと、上天草に架かる天草五橋(通称:パールライン)からパール柑の名前で親しまれています。大きさは平均600g前後で、直径15センチほどの大王。糖度12～13度で甘さと酸味のバランスが抜群で、美しい外見をしているため贈答品としても人気があります。

【お知識】

パール柑の皮の利用。皮の白い部分を炒め、砂糖漬けにして楽しめます。柑類の白い膜や実についている内袋には、脂肪の吸収を許さず内臓脂肪を分解する成分が含まれているそうです。



III. 商品開発 → 試験販売

1. 試作(パール柑を使ったケーキとクッキー)

○ケーキ(マフィン)

ピールと果肉の配合割合を変えて試作

- A:ピール80g
- B:ピール40g 果肉40g
- C:ピール30g 果肉50g

※全体のレシピは企業秘密です。

(結果)

- A:全体的に硬いものの、しっとりしているピールの食感がgood◎
- B:ばさばさしていて硬い 果肉の水分が飛び?
- C:Bよりばさばさしていて硬い

Aの材料でマフィンケーキを！



○クッキー

ピールと果肉の配合と使い方を覚えて試作

- A:ピールを生地には練り込まず上にのせる
- B:ピール20g 果肉10g (果肉をミキサーに入れ練り込む)
- C:ピール30g(生地に練り込む)

※全体のレシピは企業秘密です。

(結果)

- A:上にのせたピールが硬すぎ、風味が飛ば
- B:生地に果汁が多く、柔らかすぎて型抜きできず
- C:練り込んだピールの香りがよかった

パール柑以外の材料としてコーンスターチが多く、全体的に硬くなったのでコーンスターチを抜く。ピール・果肉を練り込むことで風味と触感を活かし、型抜きではなく絞り成形方法を変更。

2. 試験販売(上天草バザールで販売)

本校の販売実習「上天草バザール」で販売するため、みずの果樹園さんに製造依頼(私たちも一緒に製造しました。)

- 商品①「ばるけーき」(マフィンケーキ) 1個(60g)税込み¥200 100個販売
- 商品②「ばるっきー」(クッキー) 1袋(30g)税込み¥200 100袋販売

(結果)販売上

- ◎パール柑に興味を持ってもらえた。
- ◎おいしいとの感想をいただいた。
- ×クッキーの販売に苦戦した。
- ×クッキーは新商品、ケーキは割愛感。
- ×パッケージにインパクトがなかった。



IV. 販売計画(ビジネスプランの作成)

試験販売の結果を踏まえ、ケーキのみを販売するビジネスプランの作成に着手した。

ビジネスプランの概要

1. 商品の供給

- ・みずの果樹園さんに製造依頼(OEM)
- ・ケーキ1個 ¥150で供給
- ・パッケージのシールをデザインし贈付

2. バリュープロポジション

- ・「新鮮なパール柑の爽やかな香り」
- ・贈答品のパール柑を手軽にいつでも！
- ・高校生が企画した商品

3. 販売場所・方法

- ・道の駅「さんばーる」で販売
- ・週末のみ4時間の限定販売
- ・販売価格1個 ¥300

4. 収支計画

		1年後	3年後	計算方法
売上高	売上高	312万円	936万円	[売上] 1年後 [1個] 300円 × 100個 = 3万円 [1袋] 3万円 × 24 = 72万円 [1年] 6万円 × 92回 = 552万円
	売上原価(仕入高)	156万円	468万円	[売上] 3年後 [1個] 300円 × 300個 = 9万円 [売上原価] (原価率)50% [1年] 4.5万円 × 24 = 10.8万円 [1年] 12,800円 × 92回 = 1,177,600円
経費	人件費	66万円	200万円	[人件費] 1年 [1日] 46,800円 × 4時間 × 2人 = 3,744,000円 [1年] 4,400円 × 2日 = 8,800円 [1年] 12,800円 × 92回 = 1,177,600円
	家賃	0万円	0万円	[人件費] 3年後 [1日] 1,300,800円 × 4時間 × 6人 = 19,200,000円
	宣伝広告費	0万円	0万円	
	その他	0万円	0万円	
	合計	66万円	200万円	
利益	90万円	268万円		

天草名物を開発しよう！

～地元食材の魅力を引き出す商品開発～

地元食材を活かした商品開発と継続的に商品開発に取り組める仕組みに関するビジネスプランを研究しています。

熊本県立上天草高等学校2年(上天P7班)

1. 上天草市の現状

上天草の一次産業における事業所数・従業員数は減少傾向にあるが、高品質にこだわる生産者は増加している。その多くは自社の生産品を「ブランド化」し、価格を自身で決め直接販売することで安定した収入を得ている。

しかし、全ての生産物が売切れるわけではないので、直接販売できなかった分を市場に出荷する。市場の価格は需給のバランスで決定され、他の一般的な生産物と差別化ができないため、収入が不安定である。

そこで注目されるのが「加工品」である。市場に出荷して安く買われるより、加工品として製造・販売することで、安定した価格で販売できるからだ。直接販売できなかった産品を加工して販売する。いわゆる「6次産業化」と「ブランド化」が今後の鍵といえる。



上天草のブランド鶏 上天草ト

2. 私たちにできること

上天草の現状を考え、次のようなことに取り組む。

- A. 地元の食材を広くPR。
- B. 廃棄される食材、価格が不安定な食材の活用。
- C. 時期に関係なくおいしく食べられる食材の開発。



ビジネスプランの作成

① 天草名物の開発プロジェクト

② 商品開発のコーディネート業務



3. 天草名物の開発プロジェクト

① 注目した食材

芋 (かんしょ)	○甘くて美味しい
	○美容・健康に良い
	○ダイエットに良い
	○安く手に入る

② 芋を使ったスイーツの開発に着手 開発のコンセプト

- 天草でしか食べられない(他にはない)
- お土産に持って行きやすい
- 芋をマカロンなどのスイーツに加工
- 新名物として観光客を呼び込み市を活性化



(写真出典：上天草食材美味図鑑)

③ 調査「観光客が購入しているお土産」

- 水産物、海産物などで日持ちが良いもの
- お土産として持っていきやすいもの
- 持ち帰りがしやすいもの

④ 市内の洋菓子店(アローム)でインタビュー

- 芋はスイーツに向いている
- 芋クリームは手間がかかる(乾燥など)
- 実際にある芋のスイーツ
スイートポテトのパイ生地包み、
大福、ケーキ、クレープ、クッキーなど



⑤ 新商品のアイデア創出

- ありそうでないものをつくろう！
- その場で食べるスイーツ
マカロン、アイス、スムージーなど
- 持ち帰れるお土産
クッキー、カステラなど



⑥ 今後の展開

- とにかく試作を繰り返す！
- 試作品を持って専門家にインタビュー
- コーディネート業務との連携
- 来年春までに開発→販売が目標

4. 商品開発のコーディネート業務 ～持続可能な商品開発の仕組みづくり～

【発想のきっかけ】

「商品開発のアイデアはあるがどうしたらよいか分からない。」
「自分の考えた商品を売ってみたい。」という人は少なからずいる。それらの人たちが商品開発から販売までを簡単にできる仕組みがあれば、上天草市全体で常に新商品が開発されることになる。自ら開発するだけでなく、地域全体で商品開発をサポートできる仕組みを作りたいと考えた。

【具体的な内容】

【自社】で商品開発の【発案者】【製造者】【販売者】を結びつける業務を行う。【発案者】のアイデアを元に、【製造者】が共同開発、【販売者】の店舗やイベント会場で開発した商品を販売するまでをコーディネートする。その後、売れ行きを見てライセンス生産やOEM、起業などを目指す。

【発案者は】市内の学生や一般の方、または農産物の生産者を想定

- ・コーディネート料(製造者への謝礼金含む)と原材料費を負担することで自らのアイデアを形にすることができる。
- ・売れ行きを見て、①製造者とライセンス契約を結びライセンス料で収入、②製造者にOEM(委託生産)してもらい販売、③起業して自ら製造販売などの選択ができる。

【製造者は】市内の食品製造業者を想定

- ・開発者と共同開発することで謝礼を受け取ることができる。
- ・良い商品を開発できれば、ライセンス契約で自社のラインナップに加えたり、受託生産で売上に貢献できる。

【販売者は】市内の土産物店や道の駅「さんばーる」を想定

- ・継続的に新商品を店頭に並べることができ集客アップが期待。

【自社は】・持続可能な「上天草の商品開発の活性化」

上天草MRすごろく

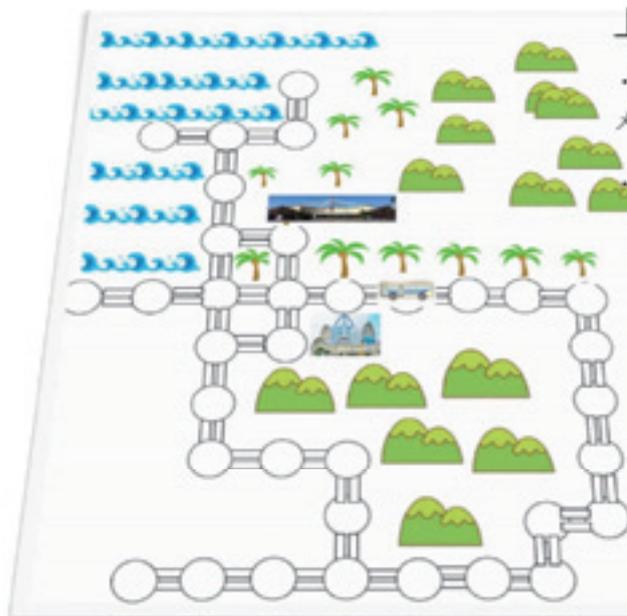
熊本県立上天草高等学校
上天草プロジェクト I 4班

ビジネスプランのきっかけ

- ・上天草の人口減少を何とかしたいと考え、現状を打破するために「上天草のPR」をしたいと考えた。
- ・地元の商品や観光をPRしつつ、上天草の経済にプラスになるような、MR アプリゲームを作成しようと考えた。

ビジネスプランの概要

- ・上天草を舞台とした MR アプリゲームを作成し、アプリ内課金・ゲームに関連した特産品購入金額の一部を収入として得る。
- ・アプリ自体が上天草のPRを兼ね、上天草外需の拡大効果もある。



上天草MRすごろくとは？(サービス内容)

- ・上天草市の名所や観光スポットを目的地とし、ナナメ上ノ上天草号に乗って進んでいくすごろくゲーム。

MR (Mixed Real) とは…！？

①コンピューターと対戦し勝利したり、ランキング上位になることで上天草ポイントをゲットすることができる。ポイントは、ゲーム内のアイテムの購入に使えたり、現実に上天草の特産品や商品券と交換したりできる。

②逆に、上天草への観光宿泊や特産品の購入で、ゲームの攻略に有効なアイテムをゲットすることができる。

この①⇔②の双方向性がMRである。

想定している顧客

- ・全国の人（ふるさと納税希望者）
- ・ゲームをすることが好きな人
- ・海外の人
- ・ユーザー
- ・気分転換をしたい人、旅行に行けない人、旅行が好きな人 etc...



収支計画

		1年後	5年後
売上率		510万円	5100万円
売上原価		150万円	600万円
経費	人件費	720万円	1200万円
	家賃	50万円	50万円
	宣伝広告費	210万円	630万円
	その他	50万円	50万円
合計		1030万円	1930万円
利益		-670万円	2470万円

FILMOON



熊本県立上天草高等学校

上天PI 10班

プロジェクトの立ち上げのきっかけ

- ✓上天草の魅力をもっと多くの人に知ってもらいたい
- ✓身の回りに綺麗な景色があるから映画などに使えないかと考えた
- ✓そうだ、フィルムコミッションをやってみよう

フィルムプロジェクトとは

映画等の撮影場所誘致や撮影支援をするプロジェクトのこと

フィルムコミッションとは

フィルムコミッションとは、映画やテレビドラマ、CMなどのロケーションを誘致し、撮影がスムーズに進行するようサポートする非営利団体のこと。多くは自治体を中心となって組織化している。ロケーションされた映画やドラマを通じて、地域の知名度や地域愛着度を向上させ、観光客の増加に繋げようとするもの。直接的・間接的な経済効果が見込め、地域活性化策の一つとして注目されている。(引用：JTB総合研究所)

具体的サービス内容

- ・製作者の誘致
- ・制作者人のロケーション撮影支援
- ・映画祭・上映会
- ・ロケハンの協力
- ・情報写真提供
- ・撮影許可申請の発行
- ・ロケの立ち合い
- ・食事宿泊施設の手配
- ・エキストラの手配募集

プロジェクトの効果

- ・観光客の増加
- ・地域文化の見直し
- ・新しい観光・地域資源の発掘
- ・地域への愛着心・知名度の向上
- ・地域経済の活性化
- ・メディアへの露出に伴う情報発信

想定している顧客

映画会社
メディア業界
広告代理店

広告方法

ホームページ
インスタグラム
Twitter

収支計画

	1年後	5年後
収入	¥5,350,000	¥10,700,000
経費	人件費	¥6,000,000
	家賃	¥480,000
	宣伝広告費	¥600,000
	その他	¥174,000
	合計	¥7,254,000
利益	¥-1,904,000	¥3,446,000

今後の課題

- ・人材確保
- ・申請手続きの複雑さ
- ・海外からの顧客への対応
- ・広報活動

地域の取材 任せて！



上天草市の広報担当を務める上天草高の生徒たち。市の広報紙を通じて、地域の魅力を発信することを目的に、同市

上天草市は18日、上天草高1、2年の有志8人に「広報特派員」を委嘱した。市が発行する広報紙に、若者目線で地域の魅力などを発信してもらう。

上天草高 有志8人 市広報特派員に委嘱

市は若い世代の郷土愛や広報紙への関心を高めることなどを目的に、2018年度から同校に特派員を要請。月1回発行する広報紙のうち7月から来年3月までの奇数月号の裏表紙1ページを提供し、テーマ設定から取材や執筆、レイアウトまで担当してもらう。

生徒たちは今後、学校の特色や取り組みを中心としたテーマ設定を予定し、7月号の準備を始め、A4判の広報紙は月に約1万1400部発行し、市内全世帯や公共施設などに配布している。

同校であった委嘱式には、特派員8人が出席。堀江隆臣市長は「高校生ならではの視点と感性で楽しい記事を書いてほしい」とエールを送った。

初めて務める特派員2年の眞田愛音さんと森海碧さんは「上天草にしかないようなスポットなども取り上げ、魅力を広く知ってもらいたい」と張り切っている。

(松富浩之)

～2020年6月20日付け熊本日日新聞～※75%に縮小

冊子で取り上げるテーマを話し合っただけで、上天草高「天草しろう部」の生徒たち。上天草市

天草四郎 来年生誕400年

「天草しろう部」始動

上天草高 紹介冊子製作へ

来年の天草四郎生誕400年に向け、上天草市の上天草高で「天草しろう部」が始動した。まず、若者の視点で人物像や足跡を紹介する冊子を作る。

市が来年秋に開催を計画する生誕400年記念祭の関連事業で、熊本の企画に同校が応じた。部の名称には「四郎」と「知ろう」をかけた。生徒と市民が一緒になって取り組む来年度までの期間限定の活動で、ほかに記念祭のPR動画作りなどを予定している。

同校は、地域課題の解決を図る授業時間を部活動にあてている。1日は、冊子担当となった。部員の2年生8人と、キリシタンの歴史に詳しい熊本大の安高啓明准教授や天草四郎観光協会の杉本健一事務局長らが取り上げるテーマなどの検討を始めた。9月中にテーマを決め、取材を始める。冊子は来年1月の完成予定で、A4判12頁、5千部発行する。

情報会計科の野嶋千尋さんは「天草四郎を推してもらえような、一冊に仕上げたい」と意気込んでいた。

～2020年9月3日付け熊本日日新聞～※83%に縮小



▽新型コロナウイルスの感染対策を応援するキャラクター「あマスク四郎」

を、熊本県立上天草高校（同県上天草市）の生徒たちが考案した。

▽地元出身で鳥原の乱を率いたと伝わる天草四郎がモデル。市に事業者向け啓発ステッカーのデザインを依頼され、校内公募で2年生3人の案が採用された。

▽南蛮風の衣装にマスクを掛け、消毒スプレーを手に感染予防を呼びかける。

「あ」には「新しい生活様式」が「当たり前」に」の思いを込めたと同校。

～2020年12月10日付け朝日新聞～

若者の視点で地域課題解決 上天草高生がビジネスプラン

上天草高（上天草市）の生徒たちが地域課題の解決に向けて考えたビジネスプランの発表会が3日、同市松島総合センター「アロマ」であり、事前の校内予選で上位となった6グループが、若者らしい視点や感性のプランを紹介した。

地域を担う人材の育成につなげる同校の「上天草プロジェクト」の一環。本年度は1、2年生約120人が31グループに分かれ、特産品や観光企画の開発、空き家や廃校の活用策などのアイデアを練ってきた。

この日、6グループは肥

後銀行支店長ら3人の審査員や他の生徒たちを前に発表。アプリを利用したゲームで観光振興を図る取り組みや、海岸に漂着する流木をアクアリウムの材料として販売できないかなど、収

支計画も示しながら説明した。

2年の久保光^{ひさみつ}さんは4人組で、パール柑^{だいきん}を使ったケーキなどの商品開発について発表。「地元の果樹園に協力してもらい、勉強になった。社会に出たら、課題解決の能力が大切だと感じた」と話した。（松富浩之）



考案したビジネスプランを発表する上天草高の生徒たち＝上天草市

～2021年2月6日付け熊本日日新聞～

天草四郎ゆかりの上天草へ



今年
生誕400年

島原・天草一役で総大将となった天草四郎は、今でも語り継がれる歴々のヒーロー。そんな四郎が生まれたのは元和7(1621)年と推定され、今年で生誕400年を迎えます。ゆかりの地・上天草で四郎にまつわる謎に迫ってきました。



▲天草四郎公の銅像



“四郎の2つの墓”の一つ 天徳四郎公園

天草四郎の生家があったとされる墓の上に広がる公園。中央には赤十字を掲げる丸窓の四郎墓があり、その傍らには「天草四郎之墓」と形取られた墓石も。



四郎が活躍したのは、関ヶ原の戦いから37年後の徳川三代将軍家光の時代。キリスト教は幕府にまらなくなったものの、島原・天草一役で活躍した天草四郎は、今でも語り継がれる歴々のヒーロー。そんな四郎が生まれたのは元和7(1621)年と推定され、今年で生誕400年を迎えます。ゆかりの地・上天草で四郎にまつわる謎に迫ってきました。

16歳でカリスマリーダ？ 不思議な力、逸話にロマン？



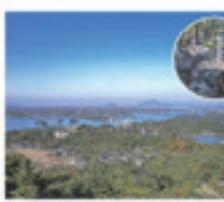
熊本大学文学部教授
安藤啓明さん
島原半島。日本史の教科書でもはじかれるのは、キリスト教を研究し、上天草半島の歴史や「天草四郎」の伝説について研究している。

ゆかりの地をめぐる



天草と島原の真ん中にある小島 瀨島

一帯の首領たちが集会したことで「瀨島」とも呼ばれる瀨島。山頂の聖堂にカマボコ型のキリストの像が、島内の聖堂神社には武蔵守道に同じな彫刻が施されています。



四郎が祝賀を聞いた望望所 千歳山

天草の島々や天草五郎が一望できる絶景スポット。山頂の望望所は、聖祥の塔に四郎が祝賀を聞いたと伝わり、四郎が登ったといわれる岩も残っています。

深心の祈り祈る神社 森宗彦軒神社

四郎の信心・森宗彦軒は、山田風太郎の小説「風雲児」で天草の祈り祈るとして知られる。ゆかりのある上天草町中郷地区では「ものすけさん」と親しまれ、神社にまつられています。



四郎が通れたトンネル？ 刈割岩

キリストたち的重要な登山道となっていた。歴史の跡と海軍トンネルが重なり、四郎が通れたという伝説も。



天草・キリストの歴史を学ぶ 天草四郎ミュージアム

島の上に立つミュージアムは、キリスト教伝来から島原・天草一役までの歴史を映像やジオラマで紹介。安藤啓明先生の解説による企画展示も必見です。
〒0964-0505 311
開館時間：9:00～17:00(最終入館は16:20)
休館日：1～6月の固定休業日
入館料：600円、中学生以下300円、幼児無料

ゆかりの地への問い合わせ先 観光/上天草町観光もてなし課 ☎0964-28-5512
観光/上天草町社会教育課 ☎0960-28-3361

上天草からちょっと足を延ばしてみよう！

- 四郎ヶ浜**
四郎の母の墓は、寛文14(1724)年に四郎の母の一族が上陸した際、このことから四郎ヶ浜と呼ばれています。
- 天草キリストン館**
島の歴史文化財「天草の歴史の館」を併設し、ロザリオやマリア像など、天草キリストンの歴史を学ぶことができます。
- 南宮寺跡(正覚寺)**
天草のキリストン伝来の中心となり、四郎が祈っていたと伝わる。天草一役後は、仏教寺院のために正覚寺が建てられました。
- 経路橋**
島原・天草一役の激戦地となった島原に架かる石造りの橋。今の橋は天保3(1832)年に架けられ、島の歴史文化財に指定されています。
- 富岡城跡**
平成17年に復元整備された。『風雲児』は、一帯地から島を築き上げた。石造りの城跡の跡が残るものもあるそう。

上天草高校～天草しろう(知る)屋～

西部と同じ16歳で四郎の魅力を発信！

16歳で島原・天草一役の総大将として立ち上がった天草四郎。歴々の16歳・上天草高校の生徒も、「天草四郎生誕400年」を盛り上げるイベント企画「天草しろう屋」を発案させ、自ら「しろう屋」やPV制作、観光ルートなどの作成を進めています。
歴史から上天草と島原で地域の課題に取り組む。発信してきた四郎。しろう屋の活動では、地元事業者や自治体の関係者などの地元の人と一緒に学び、考え、上天草の魅力を発信していく予定です。



上天草高校天草しろう屋のメンバーと天草の歴史文化財。『天草の歴史の館』で撮影された。多くの人が集まる『天草の歴史の館』で撮影された。多くの人が集まる『天草の歴史の館』で撮影された。

～2021年1月29日付けくまにちずばいす～※69%に縮小

「生誕400年」天草四郎PR

天草・島原の乱（1637～38年）で一揆軍の総大将を務めた天草四郎。出生地や生年は諸説あるが、上天草市や地元観光協会は今年を「生誕400年」と位置付け、四郎のPRや観光振興に力を入れている。さまざまな取り組みが進む一方で、新型コロナウイルス禍で今秋に予定していた記念祭の1年延期を決めるなど、思うように展開できていない事業もある。



天草四郎生誕400年記念祭のPR動画撮影のため、上天草高校生たちが薄暮の空に浮かべたスカイランタン＝昨年10月、上天草市

市は、四郎が地元の大矢野島で生まれ、16歳で総大将に就いたとされる説を基に、生年を1621年と推定。昨年8月、記念事業を練る実行委員会を市や市商工会などで立ち上げた。市を訪れる観光客は年間約190万人。400年の節目をきっかけに、さらに上積みしたい考えだ。



上天草市や地元観光協会

ロゴ作成、高校生が記念祭動画

実行委は、申請すれば無料で使用できるロゴマークを作成。事務局の市観光おもてなし課の石炭圭一郎課長補佐(49)は「土産品のパッケージなどに活用してもらいたい」と期待する。今後、ロゴマーク入りののぼりやポスターを公共施設や観光施設に掲げることにしている。

地元の上天草高の生徒を巻き込んだ活動も進む。昨年9月に始動したのは、「四郎」と「知ろう」をかけたネーミングのバーチャル(仮想)部活「天草しろう部」。ヘリウムガスで浮かぶ「スカイランタン」をクラウドで多数放ち、記念祭のPR動画を撮影した。

さらに、生徒たちが若者の視点で四郎の人物像や足跡を紹介する冊子作



実行委員会が作成した天草四郎生誕400年記念のロゴマーク(上天草市提供)

りも進行中。市民や観光客らに配ることにしており、四郎と同世代の生徒たちが地域愛を育む機会にもなっている。

実行委と足並みをそろえる天草四郎観光協会は、四郎ゆかりの地などを巡るスタンプラリーを、食のフェアと組み合わせ、秋に催す計画。事務局長の杉本健一さん(48)は「四郎の名を冠した観光協会として、将来への機微しとがなるもの

したい」と意気込む。ただ、生誕400年の周知と機運醸成はまだこれから。市内で小売業に携わる40代男性は「生誕400年やロゴマークのことは最近知った。できれば協力したいが、今のところ何も考えてない」と打ち明ける。

新型コロナウイルスの感染拡大も、盛り上がり影を落とす。記念祭延期以外では、昨秋に予定していた四郎を考察するシンポジウムが中止に。県独自の緊急事態宣言発令後は、天草四郎ミュージアムで定期的に実施してきた天草中央キリスト教会の南圭生牧師(66)によるキリスト史の講話なども中止や延期となった。

「まずは地元で四郎や郷土の歴史への関心と、生誕地という意識を高めたい」と石炭課長補佐。コロナ禍に気をもみながらも「観光地としての魅力も増し、集客につながってほしい」と強調する。

(松尾浩二)

編集手帳

現代川柳八人の世や嗚呼にはじまる広辞苑▽（橋高薫風）は有名だろう。古い版がこの通りだったかは存じないが、最新の広辞苑第7版では事情が変わっている◆真っ先に登場するのは平仮名の「あ」である。△「安」の草体▽などと説明されている。ということ、前掲の作品をもじってみる。△人の世や「安」にはじまる広辞苑▽であれば、どんなに暮らしやすいだらう◆今週から政府の緊急事態宣言の再延長期間が始まった。2か月を経て、果てなく続く感を禁じ得ない。「安」の日々が人の世に返るのはいつだろうか◆教日前、熊本県上天草市の高校生の活躍を伝える記事に頬が緩んだ。感染予防のため、天草四郎をモデルにキャラクターを考案したという。その名は「あマスク四郎」。消毒スプレーを手、くりくりした目を向ける四郎のデザインがかわいらしい。だじゃれとしても面白いけれど、ただのただじゃれではないのではと言いたくて「あ」のいわれを前述した◆ワクチン接種は緒についたものの、広く行きわたるまでの道のりは遠い。マスクがかまびすしく奨励されるから、2度目の春に入った。

2021. 3. 9

～2021年3月9日付け読売新聞～

コロナ撃退 あマスク四郎

生誕400年上天草市作成

島原の乱（島原・天草一揆、1637～38年）で一揆の総大将を務めた天草四郎の生誕地とされる上天草市は、天草四郎をモチーフにしたキャラクター「あマスク四郎」を活用し、新型コロナウイルスの感染対策を啓発している。

「あマスク四郎」は、天草四郎をモデルに、マスクを着けて消毒スプレーを手に行っている。市と県立上天草高校の生徒たちが協力し、昨年9月にデザインした。

市は、市の補助金でコロナ対策を実施した市内の事業所向けに、「あマスク四郎」のステッカー（15センチ四方）を約500枚作成。2月には、内側を抗菌仕様にしたマスクケース（縦11センチ、横20センチ）を市内の小中高校生（計約1900人）に配った。

市は、諸説あるものの、今年を「天草四郎の生誕400年」と位置づけ、観光客を呼び込もうと、様々なイベント

を計画していた。しかし、昨秋に実施予定だったシンポジウムは中止となり、今秋の「記念祭」も延期が決まった。

市新型コロナウイルス感染症対策課は「せめて感染予防に役立て、機運を盛り上げたい。一日でも早く、新型コロナを気にせず、多くの人に天草を訪れてもらえるようになってほしい」としている。



「あマスク四郎」を印刷したステッカー（下）とマスクケース

～2021年3月10日付け読売新聞～

天草四郎もっと知ろう



自ら企画や取材に携わった「天草しろう本」を手にする上天草高の生徒たち。上天草市

上天草高（上天草市）の生徒らの視点で天草四郎の人物像や、地域の魅力を紹介する冊子「天草しろう本」が完成した。企画や取材に当たった生徒たちは、「親しみを持って読んでもらえるような一冊に仕上がった」と胸を張る。

上天草高生が取材、冊子に ゆかりの地、スイーツ紹介

冊子はA4判16頁。昨年9月に始動したバーチャル（仮想）クラブ「天草しろう部」の活動の一環で、2年生8人が制作に参加。キリシタン史に詳しい熊本大の安高啓明准教授らにアドバイスをもらいながら、6割分の原稿執筆や写真、レイアウトを担当した。

生徒が受け持ったのは、市内で四郎にまつわる伝説が残る場所や四郎像の立地するスポット、四郎が食べていたかもしれないイチジクやサツマイモ、それを使ったスイーツを紹介する部分。天草・島原の乱の時代に照らして生徒たちがイメージした、庶民的なイラストの四郎のイラストも載せている。

本多希彩さんは「四郎像は顔つきがみんな違って面白い。取材でこれまで

で気付かなかった地元の魅力を知ることができた。小崎海羽さんは「この冊子を通して、上天草や四郎についてももっと知ってもらいたい」と話した。

冊子は、今年を四郎の「生誕400年」と位置付けて記念事業を展開する同市や観光協会などでつくる実行委員会が発行。5千部作製し、市役所などで配るほか市内の小中学校に贈る。

上天草高生が出演し、生誕400年や記念事業をPRする約6分半の動画も制作。動画投稿サイト「ユーチューブ」で2月から公開している。

（松宮浩之）



高校生の視点で天草四郎の人物像や地元の魅力などを紹介する「天草しろう本」

～2021年3月10日付け熊本日日新聞～※97%に縮小



上天草の課題は日本の課題！

上天草高校 × 上天草市 **ここで学び、ここで考え 未来の上天草と日本を創ろう！**

高齢化・離島・中山間部・公共交通機関・都市部への流出など、日本の課題を抱える上天草市。上天草高校と上天草市、地元企業、大学等が連携し未来の地域のリーダーを育成する。また、地域課題解決を通じた探究的な学びの成果を「上天草モデル」として全国へ発信する。

研究開発
課題

「ひと・もの・資源の宝庫」上天草で未来を切り拓くリーダーの育成

育てる
人材像

- ① 上天草をより深く理解し、誇りに思い、愛する人材(知識・技能を基盤として)
- ② 新しい上天草創造のために思考・行動・表現し、支える人材(思考力・判断力・表現力等)
- ③ 上天草と自らの夢の実現のため学び続け、夢を追い続ける心豊かな人材(学びに向かう力、人間性等)



地域の人たちと語り合おう！ ボランティアを企画してみよう！ 上天草モデルで試してみよう！ 小中学生と一緒にやってみよう！ ビジネスプラングランプリに応募だ！ キッチンカーで調理・販売しよう！ 海外・国内研修で見識を広げよう！ 区長会に提案だ！ 地域を育てるカリキュラム開発等専門家

		1年次	2年次	3年次
学校設定科目で 具体的な探究活動	普通科	「上天草プロジェクトⅠ」 【探究の土台をつくる】 ・最先端の講義・地域理解 ・プロジェクト学習(模索提言) ・発表による課題の共有 ・フィールドワーク、地域住民との「語り合い」	「上天草プロジェクトⅡ」 「地域起業研究」 【地域資源を活かした起業・ビジネスプラン】	「上天草プロジェクトⅢ」 「地域イノベーション研究」 【地域資源と結びつけた新たな産業創出】
	情報社会科		「上天草プロジェクトⅡ」 【学科特性を活かした地域課題解決に向けた探究】	「上天草プロジェクトⅢ」 【3年間の総まとめ】 【地域住民参加の成果発表会】

支える 国語×地理歴史×公民×数学×理科×保健体育×芸術×外国語×家庭×情報×商業×福祉 教科横断の分析力・思考力の育成、「聞く」「話す」「表現する」プロジェクト 土台

本事業の愛称について

愛称

「K#Amax」(ケイエイマックス)

Kは上天草のK。ポルトガル語で昔は天草のことをAMAXAと表記。
上天草の魅力を最大限に発揮しようという意も含んでいる。
また、KAは経営という意味もかけてある。

ロゴタイプ



第1回運営指導委員会において、「生徒・職員・関係者が一体となって取組めるような愛称が必要なのは。」との助言をいただきました。コンソーシアムと学校で協議し、愛称を設定しました。今後はこの愛称とロゴを使用していきたいと考えています。

令和元年度指定

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）

研究開発実施報告書（2年次）

令和3年3月発行

発行者 熊本県立上天草高等学校

住所 〒869-3603 熊本県上天草市大矢野町中 5424

電話 0964-56-0007 FAX 0964-26-5025

印刷所 シモダ印刷株式会社

住所 〒869-0562 熊本県宇城市不知火町長崎 240-1

電話 0964-32-3131 FAX 0964-33-1598

文部科学省 地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）
熊本県立上天草高等学校&上天草魅力化コンソーシアム



熊本県立上天草高等学校

<http://sh.higo.ed.jp/kamiamakusa/>
〒869-3603 熊本県上天草市大矢野町中5424番地

TEL 0964-56-0007

FAX 0964-26-5025

